

DL-Raw.Net

第三十八話 西南戦争










ぐわああっ!!
ぎゃああ——っ!!



撃て撃てぇ!!
こちらは数で圧倒してる!!
一気に熊本城を落とせぇぇ!!
熊本城 下馬橋側
明治十年二月二十二日西郷軍は熊本城に総攻撃をしかけた
やりやがったな士族どもめ!!
俺たちだって死ぬ思いで訓練をしてきたんだ!!
西郷決起に呼応した不平士族たちも続々と集結し政府軍に戦いを挑んだのである
トン…
!


おい洞門!!
何をしておる!!
ジャキ
よしっ…もらった!!
死ねぇ!!
伏せんか!!
弾が来るぞ!!
!
消え……

ぎゃはっ!!

ぐふっ!!

わっ……わあああ!!



強き女よ……刀一本でこの戦場を駆け抜けるか!!

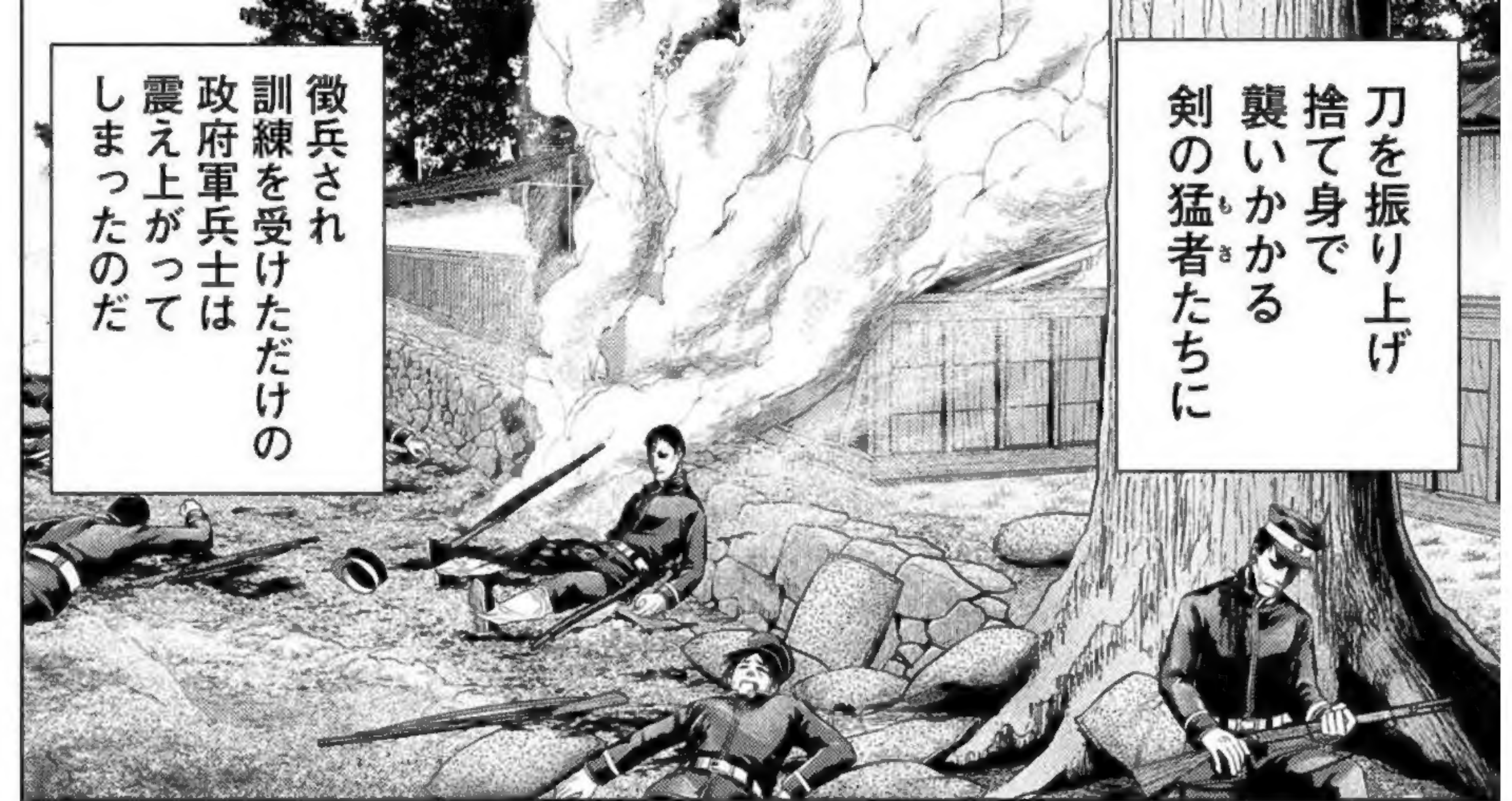
あれこそ まさに侍!! 我らの魂!!








銃や野砲を
主力とする
西南戦争で最も
猛威をふるったのは
西郷軍の
「抜刀隊」であった


刀を振り上げ捨て身で襲いかかる剣の猛者たちに
徴兵され訓練を受けただけの政府軍兵士は震え上がってしまったのだ


ハァ
ハァ


怪我はないか洞門!!
ああ…問題ない


このまま城内へ突入するぞ!!
ゴォォォ…
進め!!


熊本城 藤崎台側
カタ…
カタ…


ドクン
ドクン


聞こえる……銃声が……!!
パンパン…
ドオン
もうすぐ僕の所にも敵が来る……!!


大丈夫……訓練通りやればいい!!
恐れるな……!!


トン…
……?
ど……どうした?


ピュッ
ピ…


わあああ
あっ!!
ひっ……
ひいいいい!!




死んでる…!?
どうして
…!?
!


オオオオオオ


て…敵だ!!
いつの間に!!
負傷している…!?


ジャキッ


よく狙え…!!
外すなよ…!!
…ね……
!


死ねえええんッ!!
ビクッ
ゆ……
指が……
動かない…!!
死……

ドオン








青山くん……!!
……ありが……とう……


もし助けてもらっていなければ……
僕は今頃……


!!


ふざけんなよ
これはもう訓練じゃねえんだ

一瞬でもためらえばひるめば殺される
わかってんのか!!

……!!
ギリ

…ああ…わかってる
もう…大丈夫だ!!

ドン
……言っとくがな


死んだら・・・
許さねえからな！


覚えとけよ!!
あ‥‥ああ!!
オオオ…
フン‥‥‥‥
ドドドド
なんだ!? この音‥‥
おい!! たっ‥大変だ!!

前線の砲兵隊が破られた!!

西郷軍が大量に押し寄せてくるぞ!!






熊本城内に突入しろ――!!
オオオオ
ドドッ
すごい数の敵が押しよせてきた!!
ドドドッ
こっちの戦力じゃ止められない!!
ひいいいっ……逃げろ!!
……!!
第三十九話 籠城戦
ザッ
青山くん……
政府軍は壊滅寸前だ!!一気に行けー!!

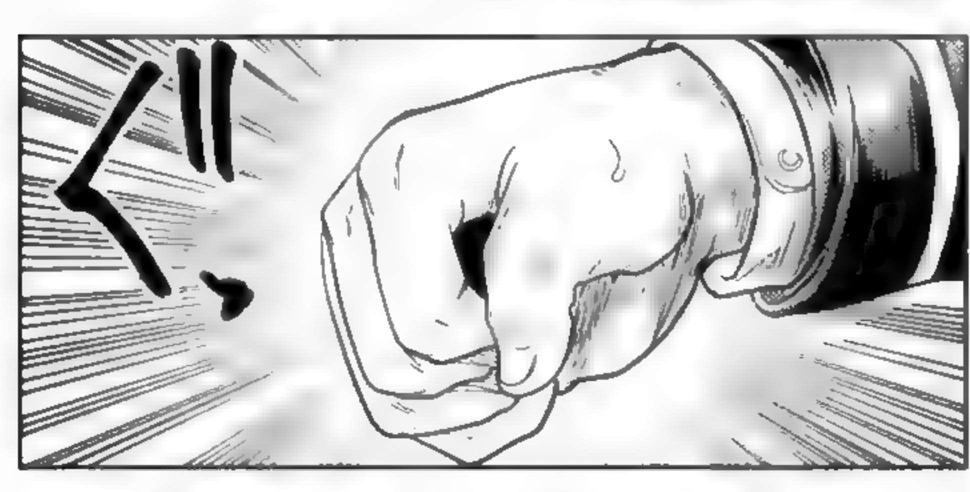

ドドド
ぐふっ!
ぎゃっ!!
鉄砲なんぞにひるむな!!
叩っ斬れ!!
うおおおおお!!

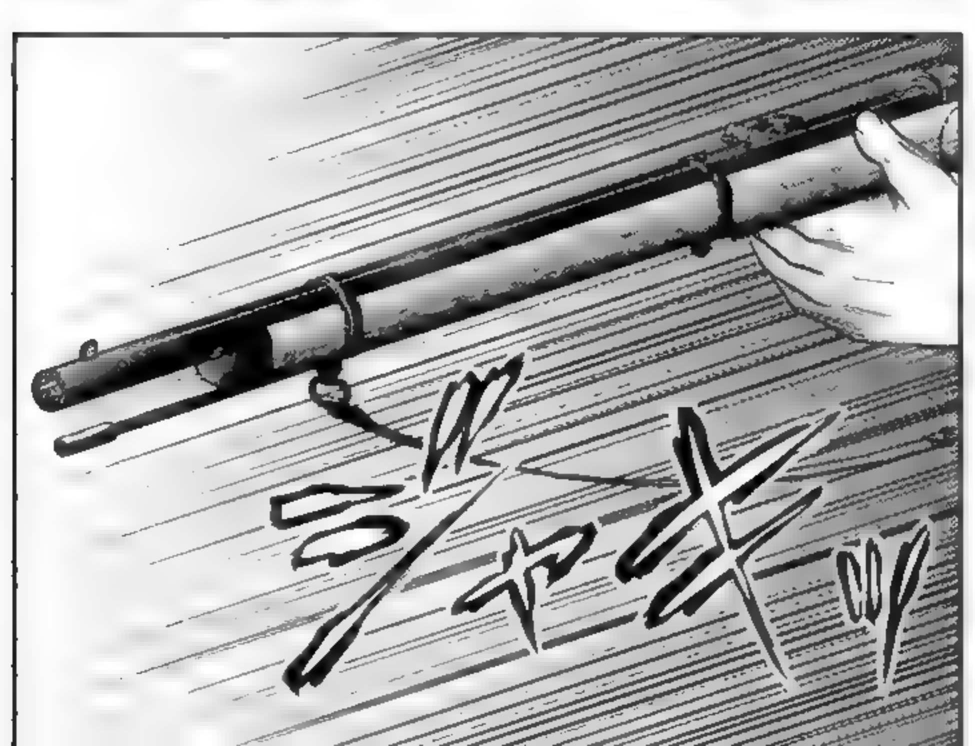

がはっ!!
げふうっ!
ニヤッ
むっ……
こいつ…
ドドッ

できるぞ!!

気をつけろ!!
慎重(しんちょう)に行け!!








背中はお前に預けるぞ幸乃助
ああ・・!!
派手にやろうぜ
こんな所で死んでたまるか!!
沙夜にまた会うんだ!!
戦うぞ!!

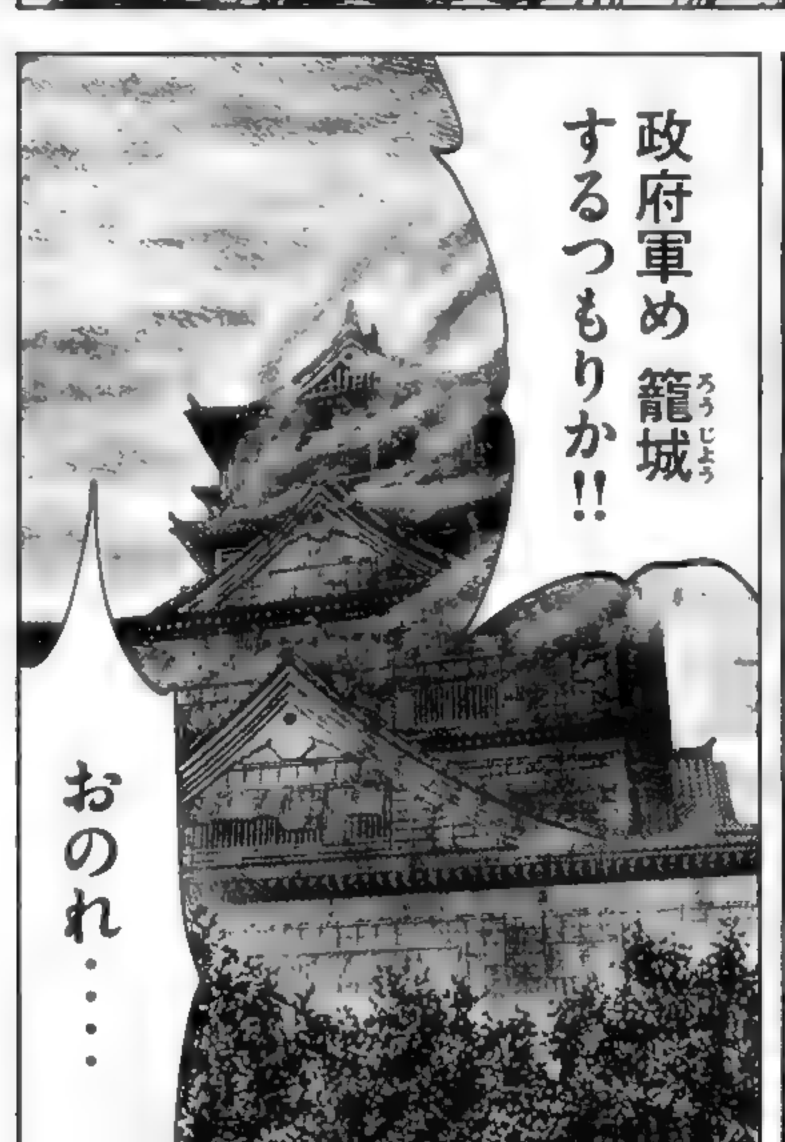
ぬっ!!

!!

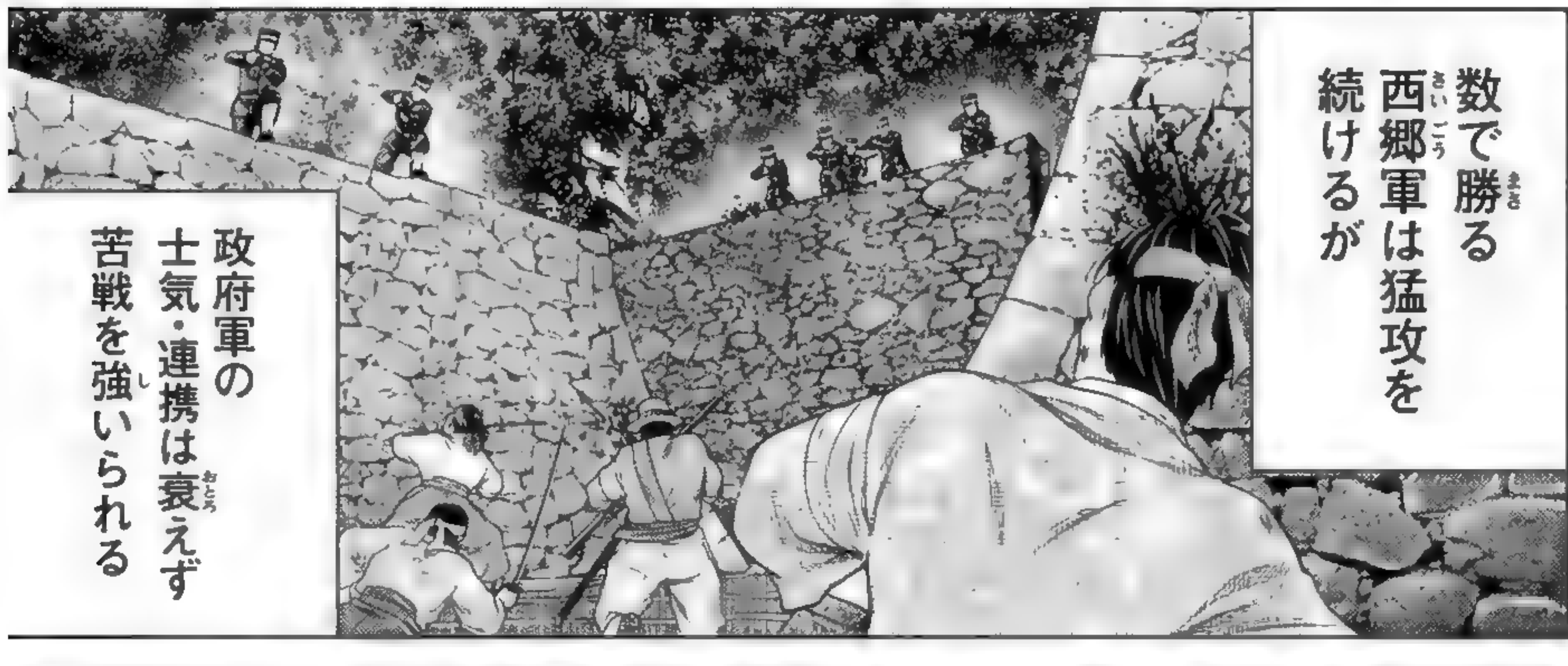



谷司令長官!!
チッ‥‥せっかくのってきたところだったのによ
長官さまには何か作戦があるみてえだな
退くぞ幸乃助!!
点火しろ!!
はっ!!


なっ……
何!?
橋を
爆破した!?
ゴォォォ


政府軍め 籠城
するつもりか!!
おのれ……


谷干城の英断により
政府軍は三千弱の兵で
守りに徹する
作戦に出た


数で勝る
西郷軍は猛攻を
続けるが
政府軍の
士気・連携は衰えず
苦戦を強いられる


城周辺に
しかけられた
「地雷」も
西郷軍を足止めした
冬の熊本
吐息の白い
寒さの中


一進一退の
攻防が
三日間続いた

二月二十四日
西郷軍本営
パチパチ
ちくしょう……!!
政府軍め…ここまで粘るとは……
二、三日で城を落とすどころか完全に膠着状態だ
ギリ…


洞門
パチ…パチ…


…桐野か
なんだ？




この戦況…どう見る？お主の意見を聞きたい
……長期戦を覚悟すべきだな
敵の動きはどうなってる？


政府軍の援軍 第一・第二旅団が 熊本に 向かってきとる
このまま 攻城を続けるか 援軍を討ちにいくか ……悩ましい


援軍を 討つべき だろう
敵の進路が わかれば 挟み撃ちにできる


……そうだな
俺も そう思う


時に…… 洞門よ
お主は なんの ために 戦う？


……え？



俺は…西郷先生に
剣の活きる道を教えてもらった



ただ人を斬る事しか知らなかった俺に
国を変えるという野望を与えてくれたんだ

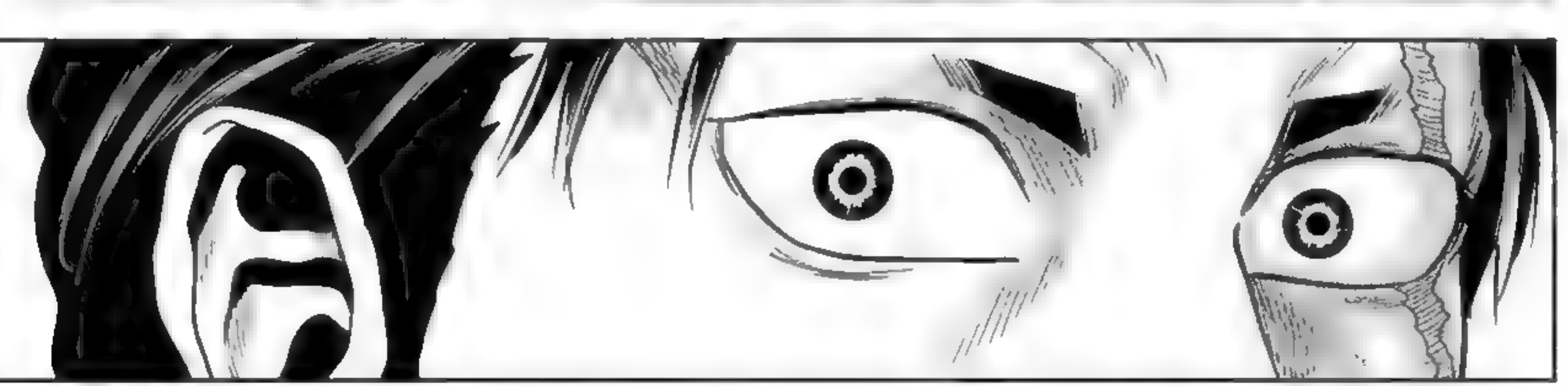


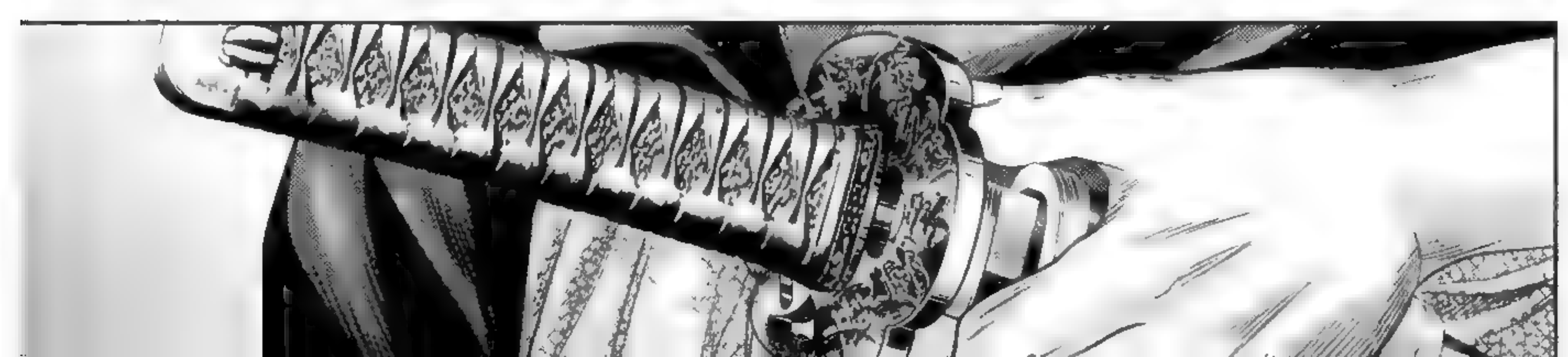
……



だから俺は生涯この人についていくと決めた
洞門にも…そういう思いがあるのか？




……馬鹿な男がいてな


弱く脆い……どうしようもない奴だ
口ばかりで何一つ成し遂げる事のできない男



剣を握(にぎ)っていれば
あいつにまた会える気がしてな

こんな戦場にいるわけもないが・・・・

どこかで奴を探してしまう私もまた馬鹿なのだろうな

ザッ

そうか・・・・

なら俺も馬鹿だな

・・・え？



お前に惚れている!

そんな男・・・・忘れてくれんか!!



そんな軟弱な男
忘れてくれんか!!

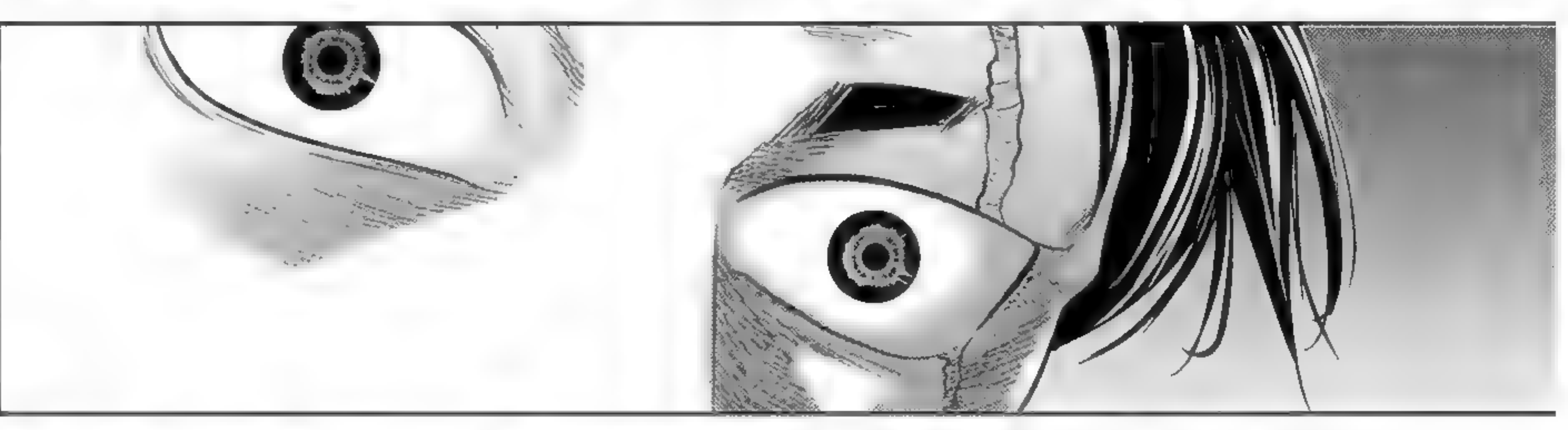
沙夜!!

第四十話 最愛の人











いや……
すまん……

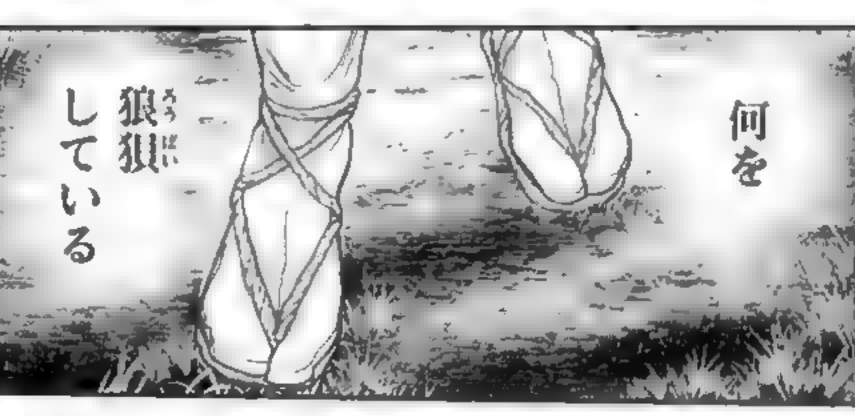


決戦の時にこんなたわけた事を‥
桐野……
血迷っていたよ

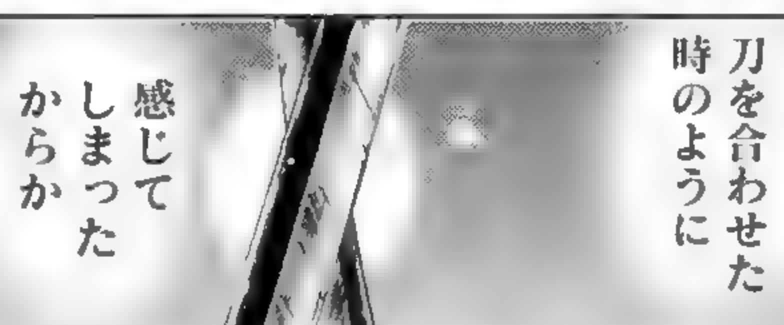
最後まで共に
戦おうぞ!!

洞門!!



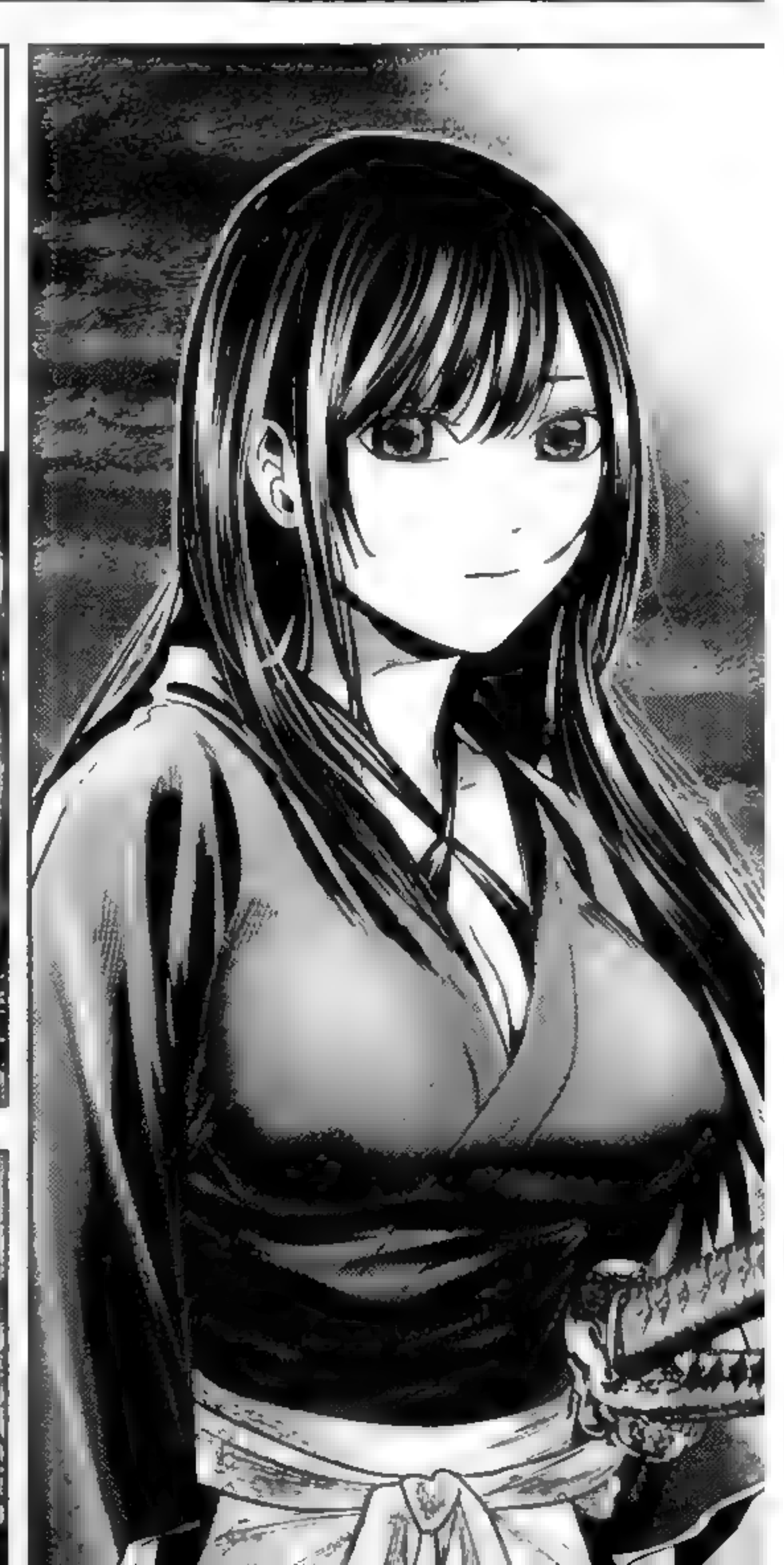




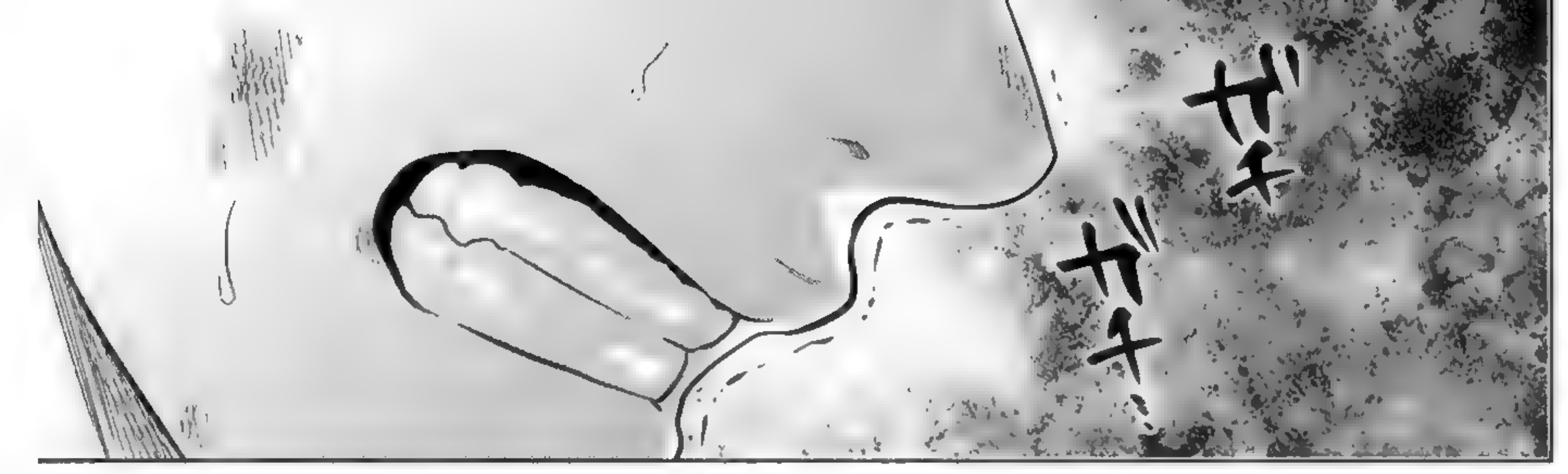



洞門がその軟弱男を
どれほど想っているかを

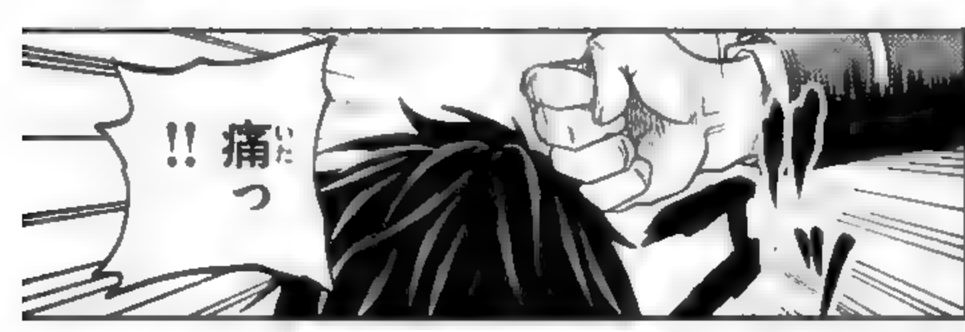

三日間の攻撃を経て西郷軍は戦略を長囲策に転換
桐野・沙夜も政府側の援軍を討ちに行く事になった






ガチ
ガチ…


ドクン
ギョロ
ギョロ
ドクン

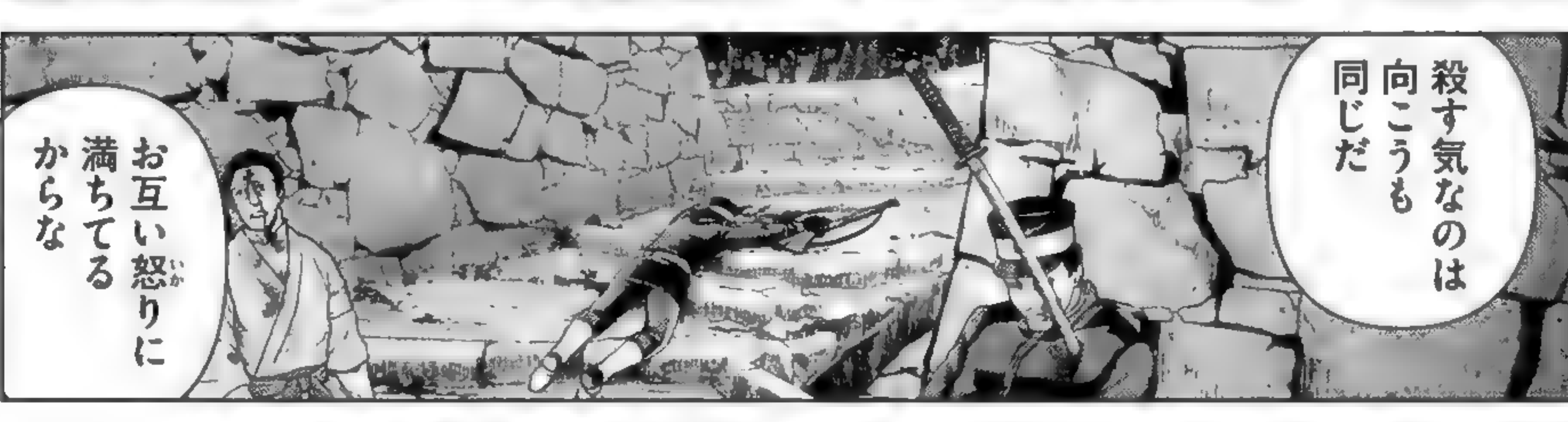

痛っ!!
ゴッ


そんな気張ってても しょうがねえぞ
青山くん……
攻城が難しいとみて 敵は様子見に入ったらしい


援軍ももうすぐ到着する しばらくの辛抱だ
…そうか




……そう簡単には慣れねえぞ
!


殺す気なのは向こうも同じだ
お互い怒りに満ちてるからな


数秒前まで笑ってた奴がバタバタ死んでくのが戦場だ
……!!


青山くんはやっぱり……
強いんだね……


別に…戦争なんて初めてだが
生きるためにずっとやってきた事だ


そうか……
これが……
ドクン
生きるために
人を殺す…!!

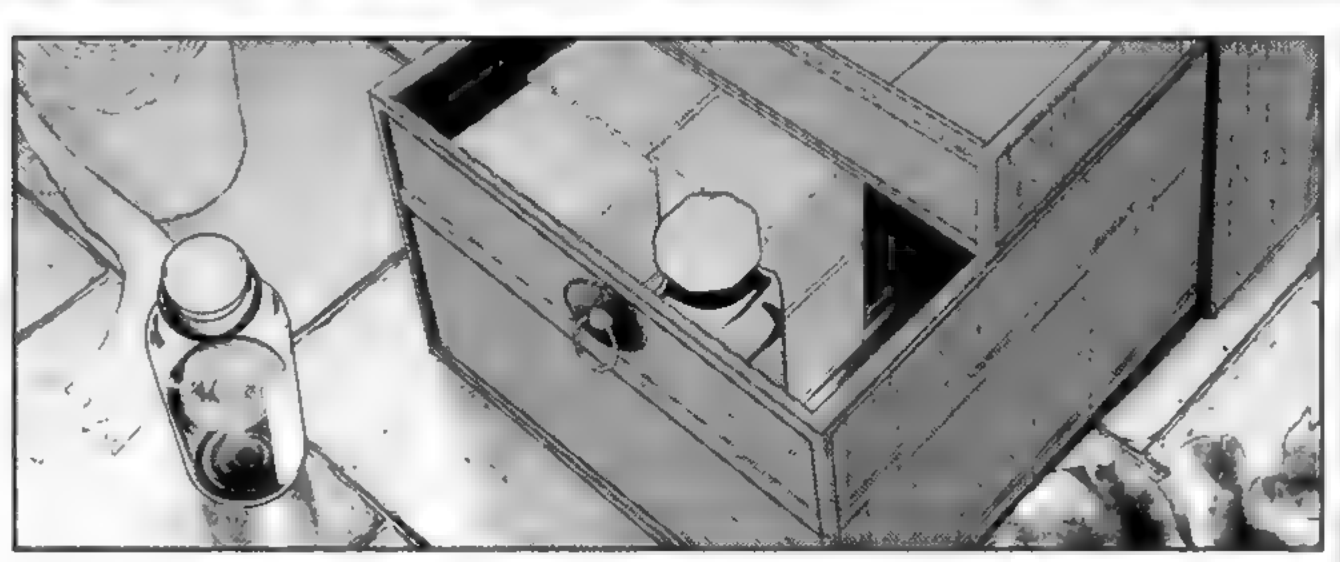

飯でも
食っとくぞ
ほら立て……
ズキン
…っ…!!


……
どうした?
ちっ……
なんでもねえよ
怪我して
いるのか!?
見せてくれ!!

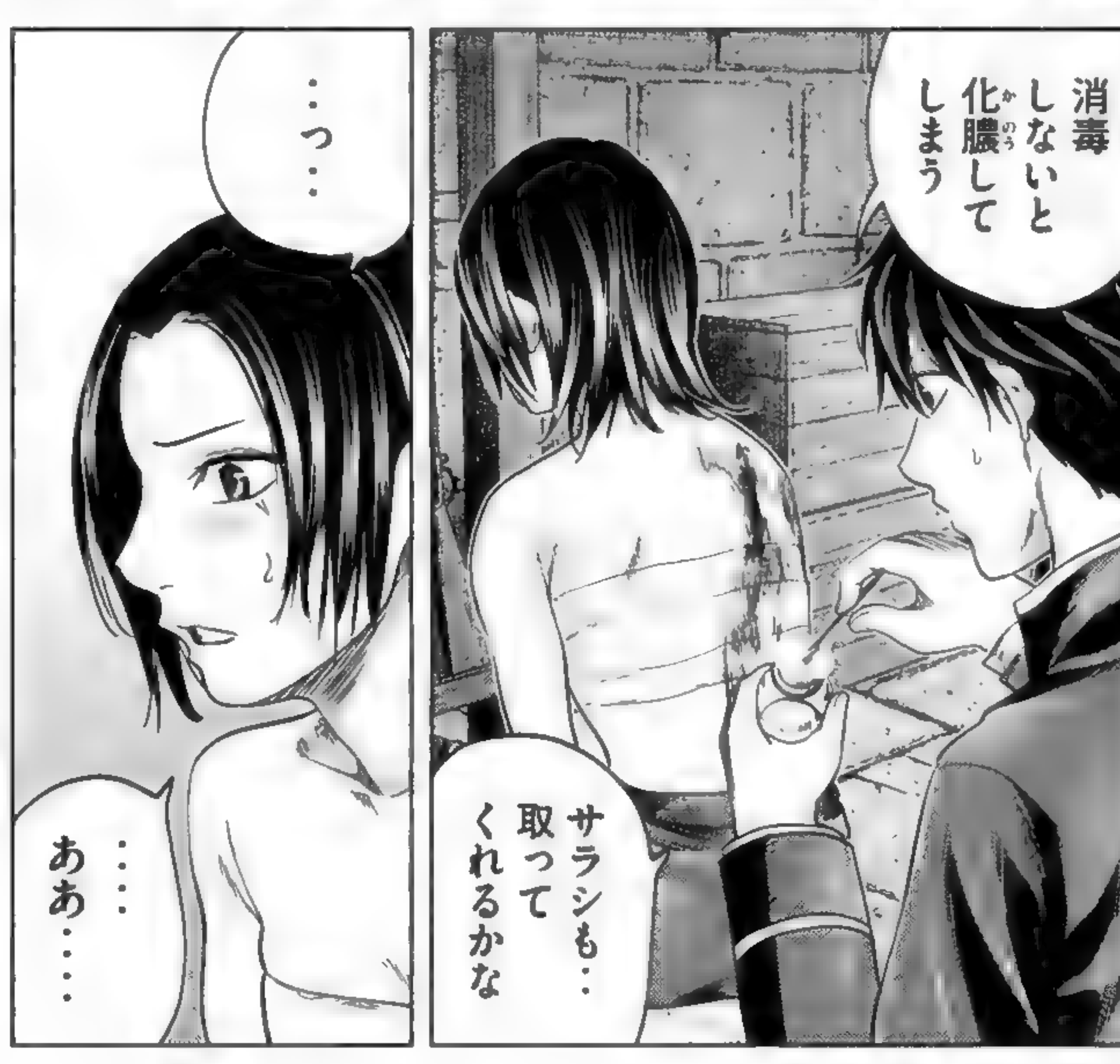

ちょっと刀が
かすっただけだ
わっ…す…
すごい血
だよ!!


治療しないと!!
服を脱いで!!
はあ!?

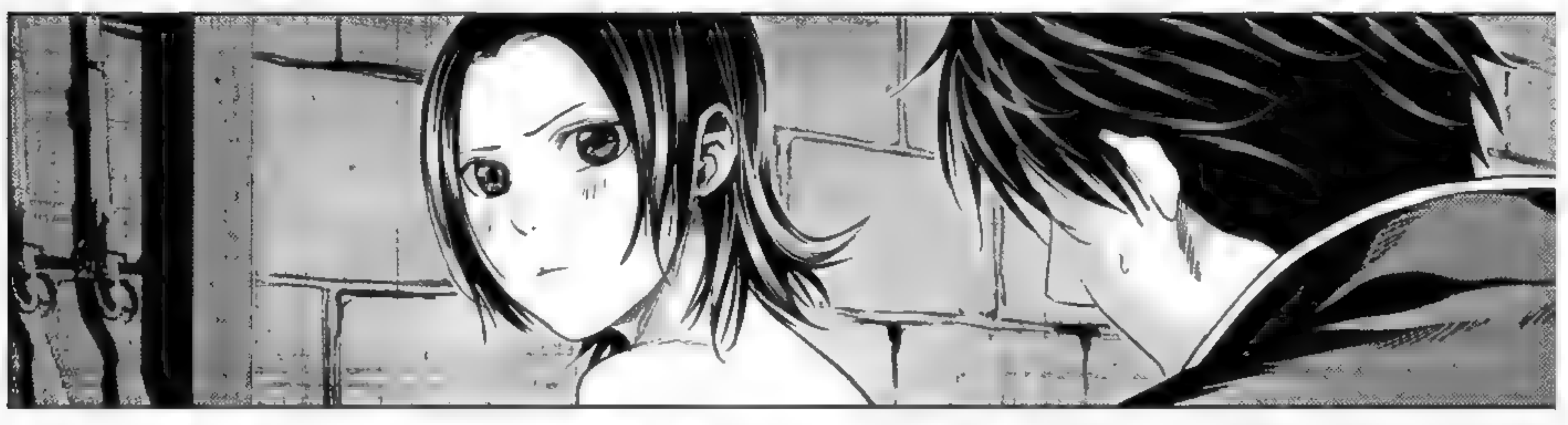

こっ・・・・こんな所で脱げるか馬鹿!!
あ!そうか・・じゃあ・・
弾薬庫の中に行こう!!あそこなら人が来ない
・・・・・わかったよ

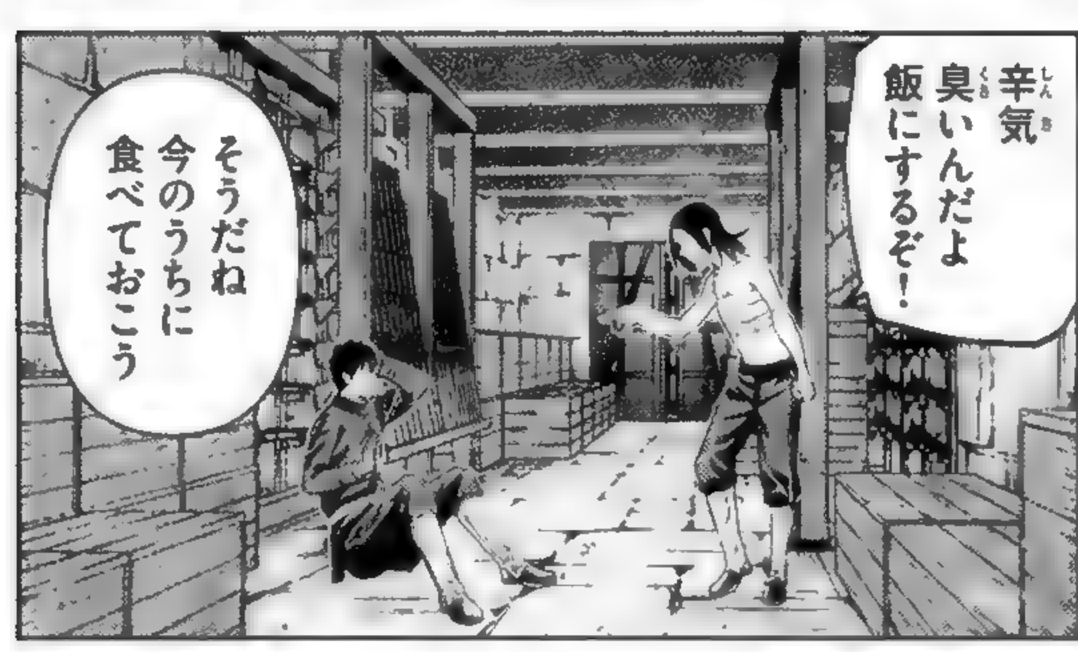
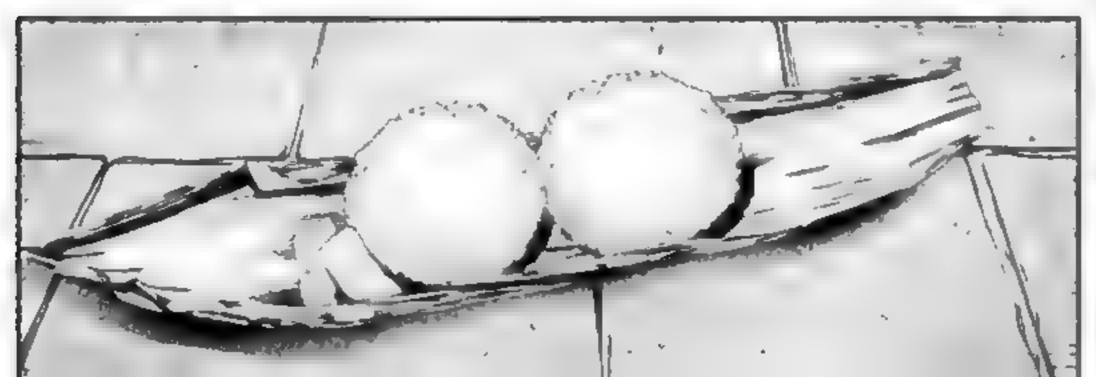




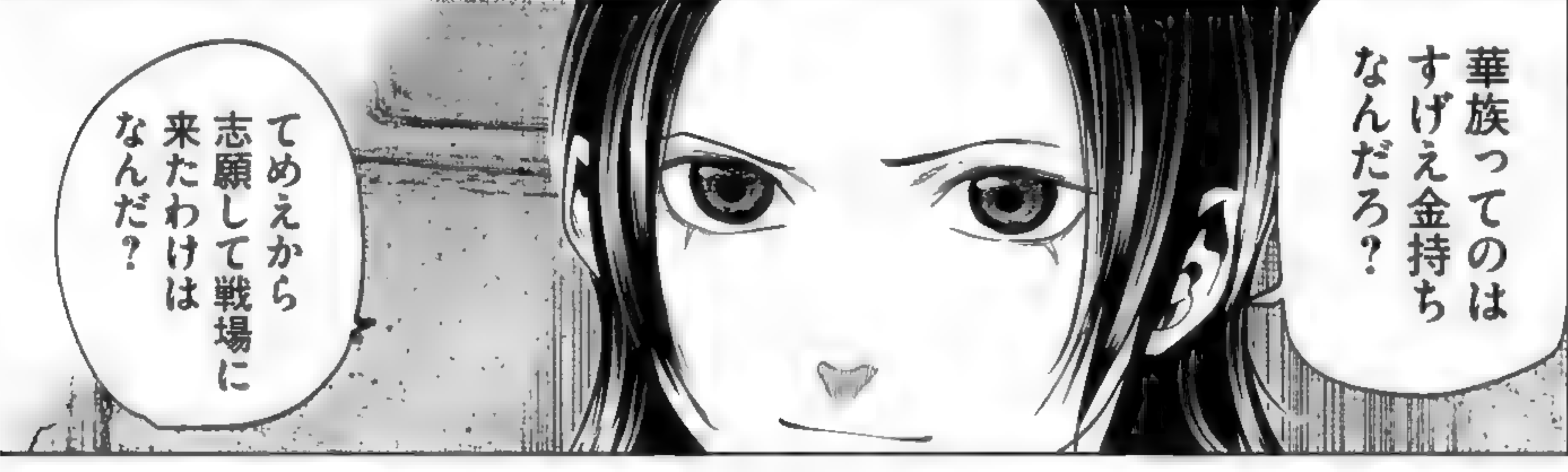

消毒しないと化膿してしまう
サラシも・・取ってくれるかな
・・っ・・・
・・・・ああ・・・・

すっ…
ドァン…
ピタ…
ピタンッ
…んっ!!
こ…ごめん
染みた?
平気だよ…
悪いな
…いや…


君には
助けられて
ばかりなのに
……
僕は
こんな事しか
できないから
……


……
たっ!!

辛気臭いんだよ
飯にするぞ!
そうだね
今のうちに
食べておこう



……そろそろ教えろよ
え？
お前がなんで軍に入ったかだよ


華族ってのはすげえ金持ちなんだろ？
てめえから志願して戦場に来たわけはなんだ？


………
それは……


ある女に……言われたんだ
！
僕とでは明治の世を生き抜けないと

僕はもう六年その女を追い続けてる

いつかその手をしっかりと掴むために








…ああ……
愛している




ガッ
うわっ!!
オオオオ


ボソ
ムカつくぜ…

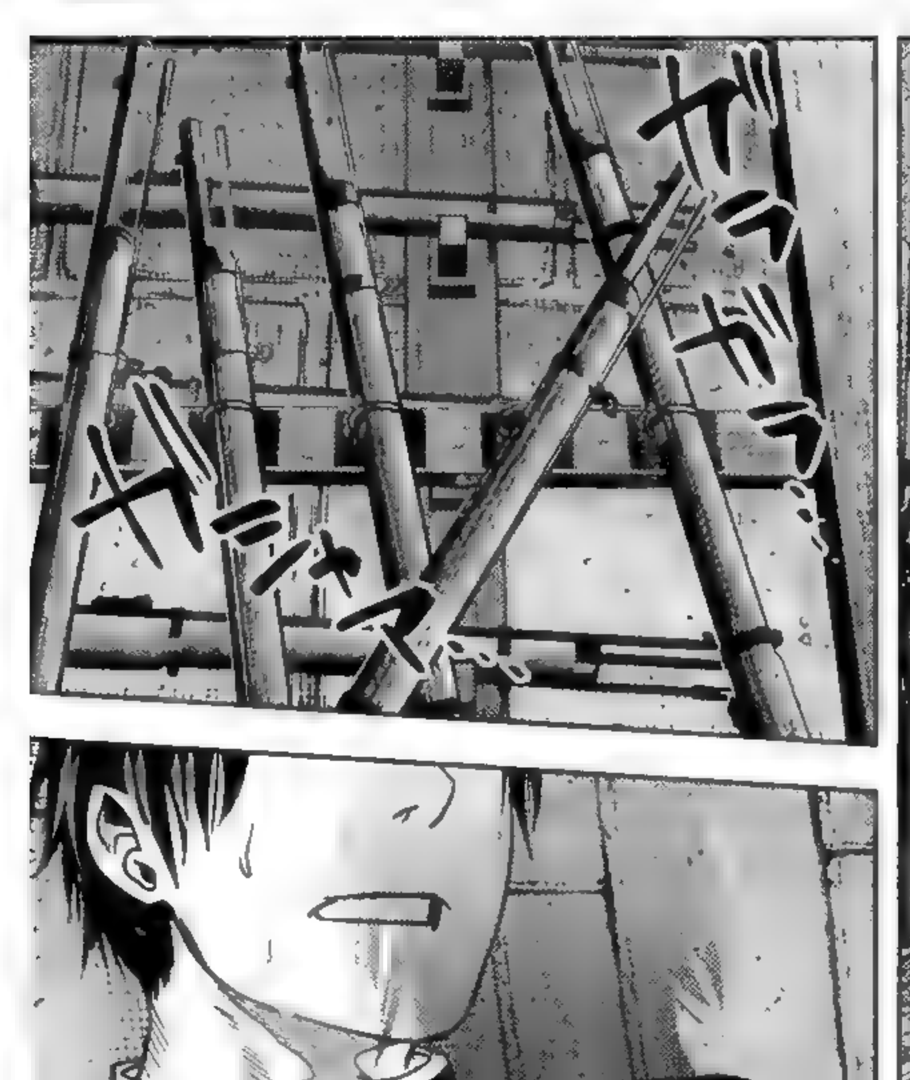

立て!幸乃助
ザッ
なっ…なんだよ急に……



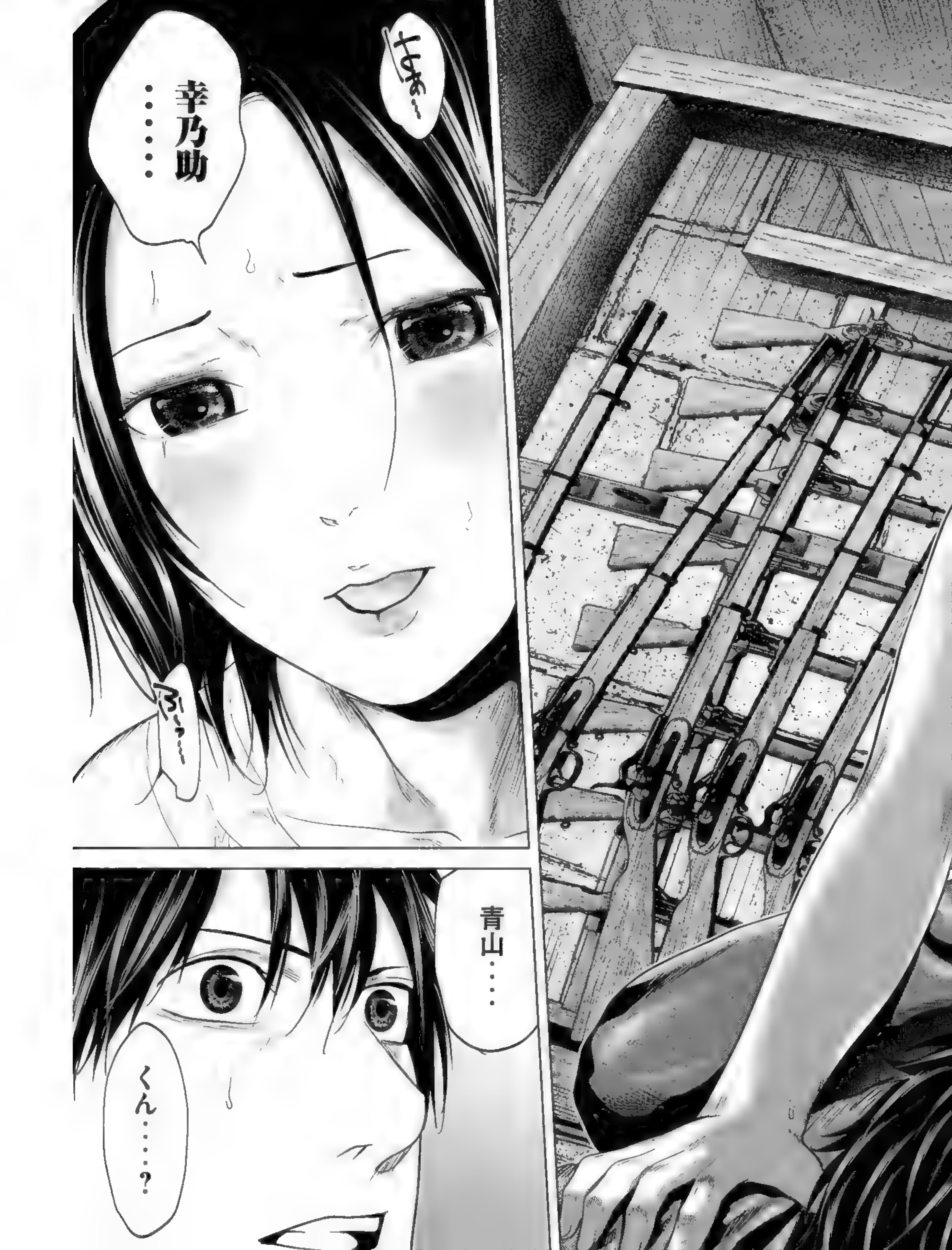
鍛錬(たんれん)だよ!!
くっ!!
負けるか!!
ぐっ!!
う……


ムカつくんだよ
てめえ・・・・!!
こっちの気も
知らねえでよ
!!

え・・・!?
青山くん・・
泣いてる・・・!?

ド
ゴッ
うわっ!!
ガシャア

ガラガラ・・・
ガシャア・・・


はぁー
はぁー


はぁ～
幸乃助……
ふ～っ…
青山……
くん……？


第四十話 終

第四十一話 本当の名









ぷるんっ…








抱かれたいと
思ったのも
・・・・!!




なのに・・・
なんだよ 好きな
女がいるって・・・
どうして
くれんだよ
この気持ち
・・・・!!


明日死ぬかも
しれねえのに・・・
抱えこんでいたく
ねぇよ・・・・・・


青山くん・・・・・



ぐりっ…
!!
ん…っ…
くちゃ…
ふうっ……
れろ…




ひゃっ…!!
ああっ…!!
ぴくん…
こんな事しか
僕にはできない
けれど
んっ…
はぁ…
んっ…
んうっ…ゆ……
幸乃助っ……!!
君への恩返しに
なるのなら——
あっ…ああ……
やっ……!!
はあっ……!!
……
いいかい?
ま…待って!!
待って……!!

じゅぽ

じゅぽ

し……
信じられない
……

あの青山くんが
僕にこんな事を
……!!






ふあああっ……!!
ピクンッ
ズプッ
グググ
ビクンッ
あっ……あ……あああああ!!
……っ……入った……!!
ビクンッ
やっぱり鍛えてるからキツイね……
……っ……うるせえ!!
早…くっ…動け!!
ひゃあっ……!!
パンッ
パンッ
パンッ
あっ…あっ…いやあっ!!


ううっ……ああああ!!
ズプッ
きっ……気持ちいいっ……!!
こんなっ……のっ……
初め…て……ああっ……!!
は…
は…
僕もっ……気持ちいいよ……!!
青山くん……!!
いやっ…!!
その名前で……呼ぶな!!
そうか
なら教えてくれ!!


君の本当の名前は!?
ああああっ!!
は……花代……!!
私の…名前は…花代……!!
……花代!!
花代!!


幸乃助!!


花代!!!
チチチ…
二月二十六日
ミシッ…

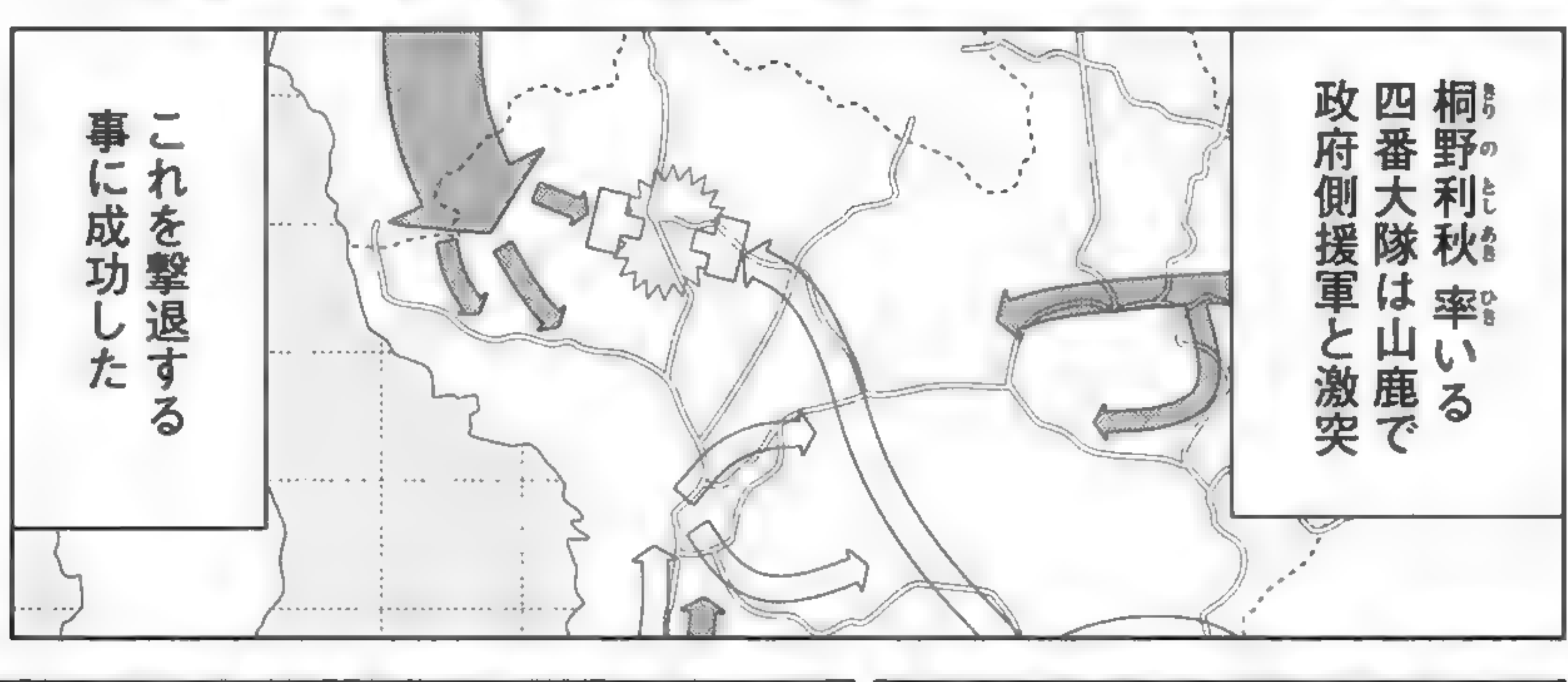

山鹿方面
ワァアァァ
撃てえ――っ!!


ドザァァ
ぐわあっ!!
ドォオン


退け!!退け――っ!!
永野原まで撤退しろ!!
ドドド


奴ら逃げていきよる!!
見たか!!


政府軍撃破じゃ!!
オオオオオオ
うおおおおおお!!


桐野利秋率いる四番大隊は山鹿で政府側援軍と激突
これを撃退する事に成功した


洞門!!


やったぞ!! 俺たちの強さを証明したな!!
ああ・・・・この地形は戦いやすかった
待ち伏せに適していたな


それと……
洞門……
この前言った
事なんだが……

ズズ…

お主に……
惚れていると
いう話だ
……
ザッ…
あの時は
想い人を忘れて
くれなどと
言ったが……

撤回しよう
それこそ軟弱な
考えだった

え……？
スッ

この戦いで魅せればいい!!

洞門を振り向かせられるような勇姿を・・・・!!

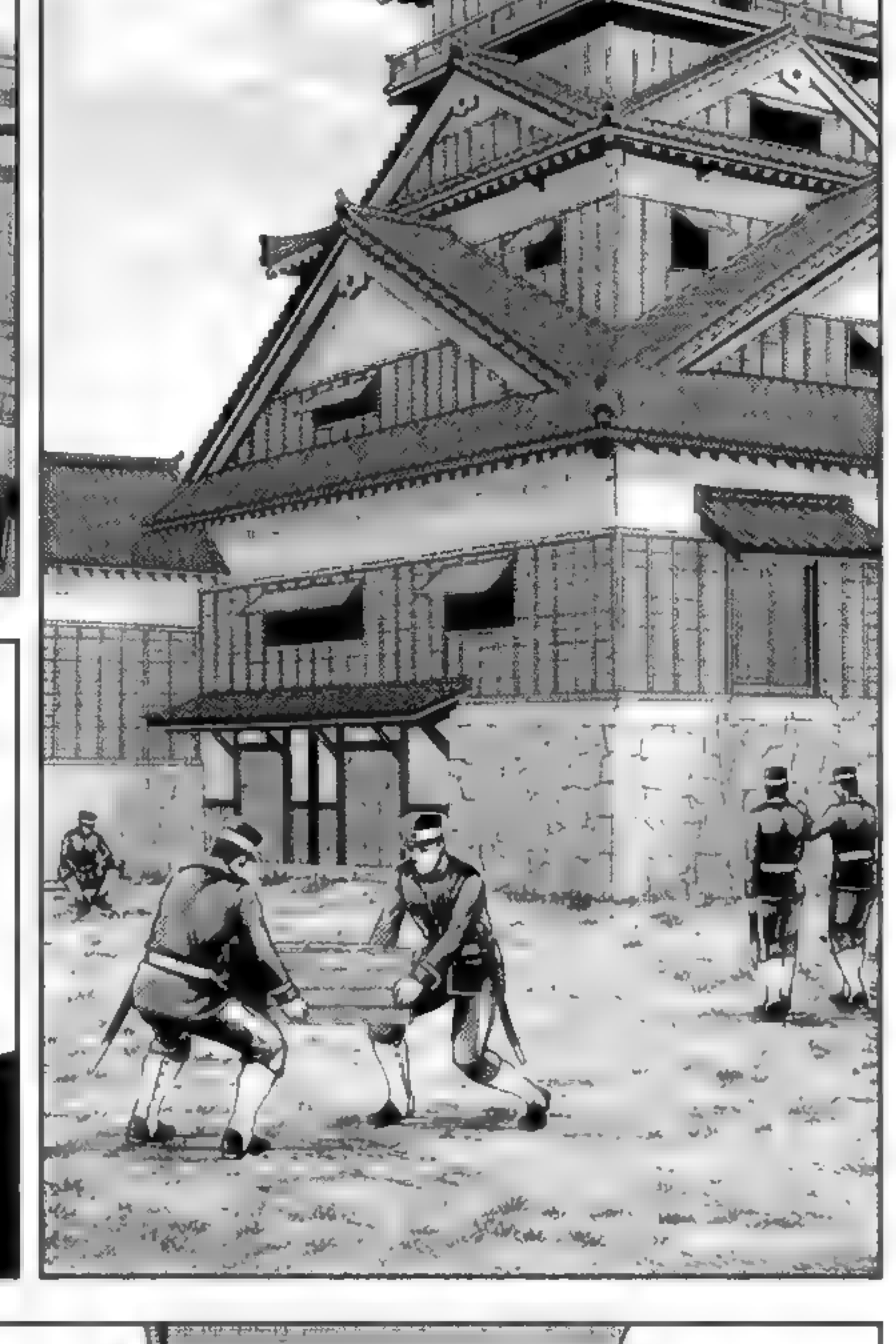


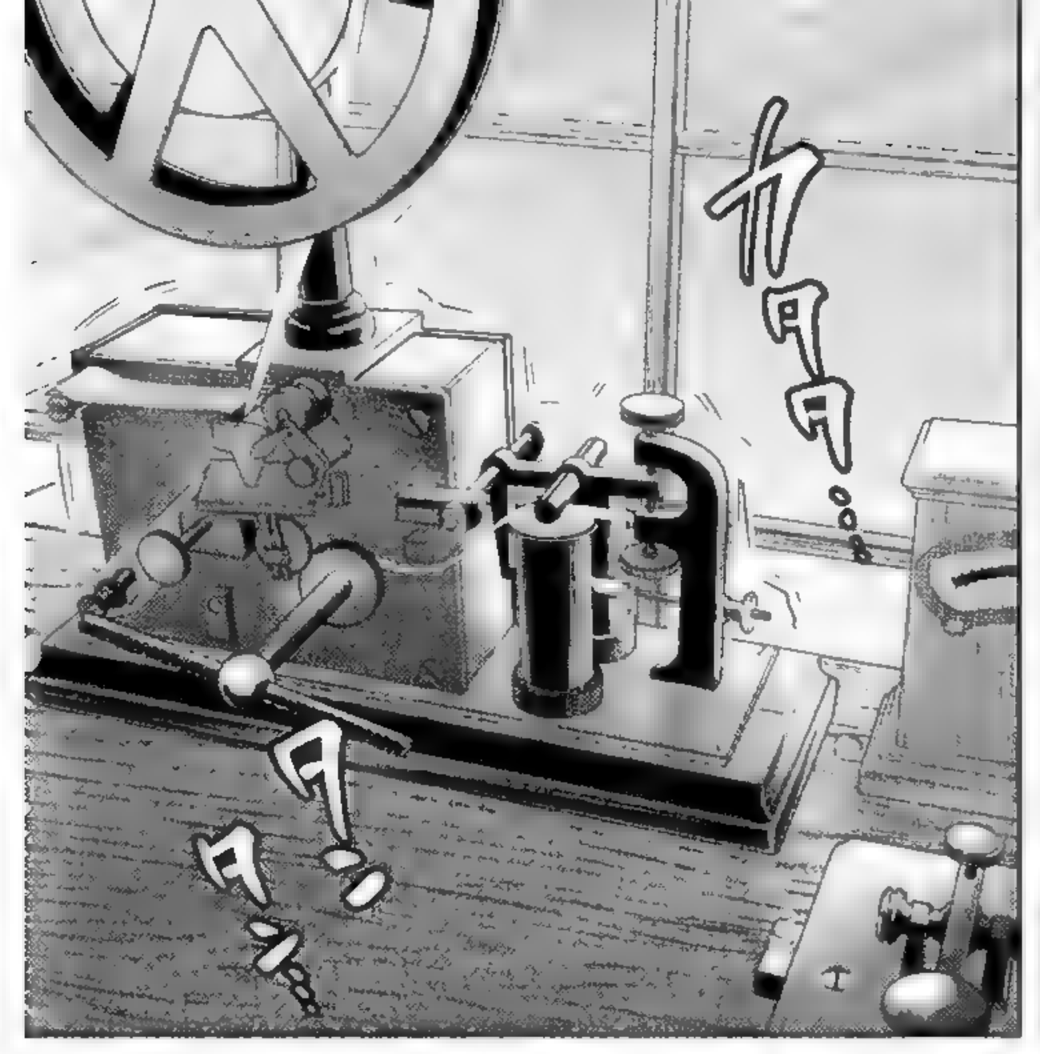





俺より先に・・・・
死なんでくれよ
最後まで
見届けてくれ


・・・・ああ・・・・
言われなくても
そのつもりだ





カタタタ…
タン タン…



第一旅団より電信が届きました!!
山鹿で薩摩軍の猛攻に苦しみ 一時撤退!!



奴ら攻城を諦め援軍を討ちにいったか
となると城周辺の勢力は少なくなっている…… こちらも攻めに出るか
政府軍は当時最先端の情報伝達術「電信」を使って戦況を共有した
西郷軍に大きく勝る部分である


聞いたか？ 幸乃助
援軍は
かなり苦戦してる
らしいぜ
ああ!!
熊本城に籠る戦いは
まだまだ続きそうだね

…まあ……
お前といっしょに
いれるなら……
悪くねえけどな
……


司令長官!!
妙な情報が
入りました
なんだ？
なんでも
……

西郷軍に
あの
首斬り家
洞門沙夜が
いるとの話
です!!
第四十一話 終


洞門沙夜が……
戦場にいる!?
ド


わっ!!
ほっ……本当なのか!?

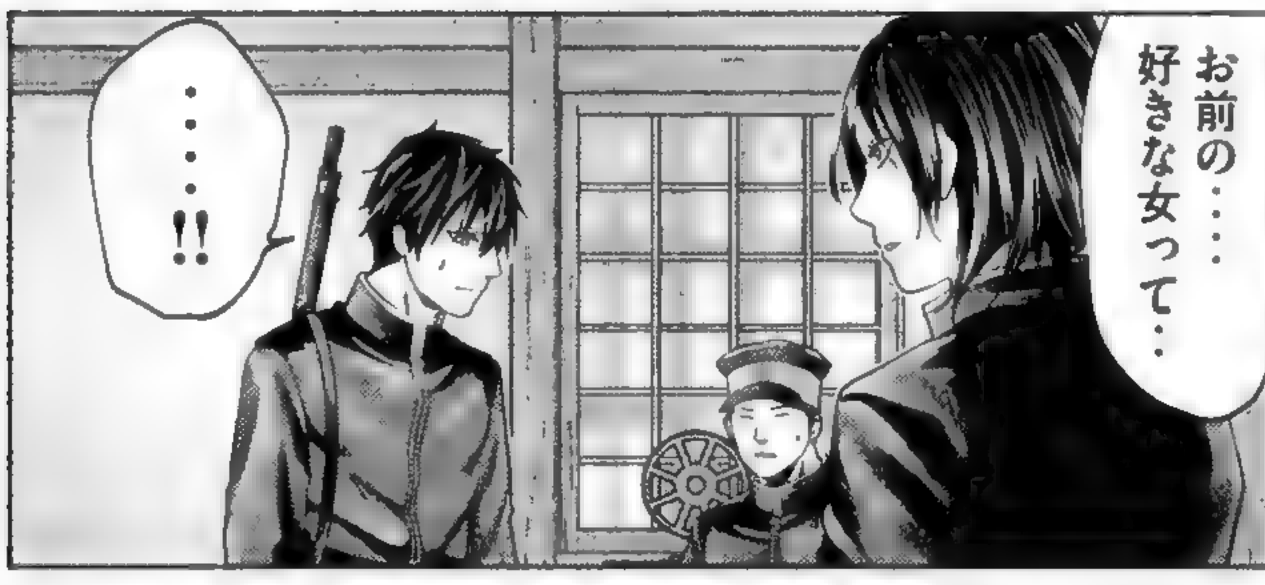

今そう言ったな!? 沙夜がいると!!
え…あ…ああ 田原坂方面の援軍からの情報だ
第四十三話 田原坂


なんだよ 幸乃助 どうしたんだ?
あの首斬り家と知り合いなのか?


……!!
ああ……
そんな……
どうして彼女が
この戦争に……!?


……!!


もしかして
……
ギリッ
首斬り家
なのか……?


お前の……
好きな女って……
……!!


キュ



!!
バッ



ダ
ダ
ダ
ダ



バ
おい!! どこへ行く!!
待てよ幸乃助!!



何考えてんだよおい!! 止まれ!!
駄目だっ・・・・行かなくちゃ・・・!!
俺たちの持ち場は熊本城だろ!! それに・・・・


行ってどうする!!
お前は政府軍
首斬り家は西郷軍
敵同士だろ!!
殺し合いに
行くのか!?


……
!!


…行くなよ
…幸乃助
ここにいっしょに
いてくれ……!!


キュ……
…馬鹿な事
…やめろよ



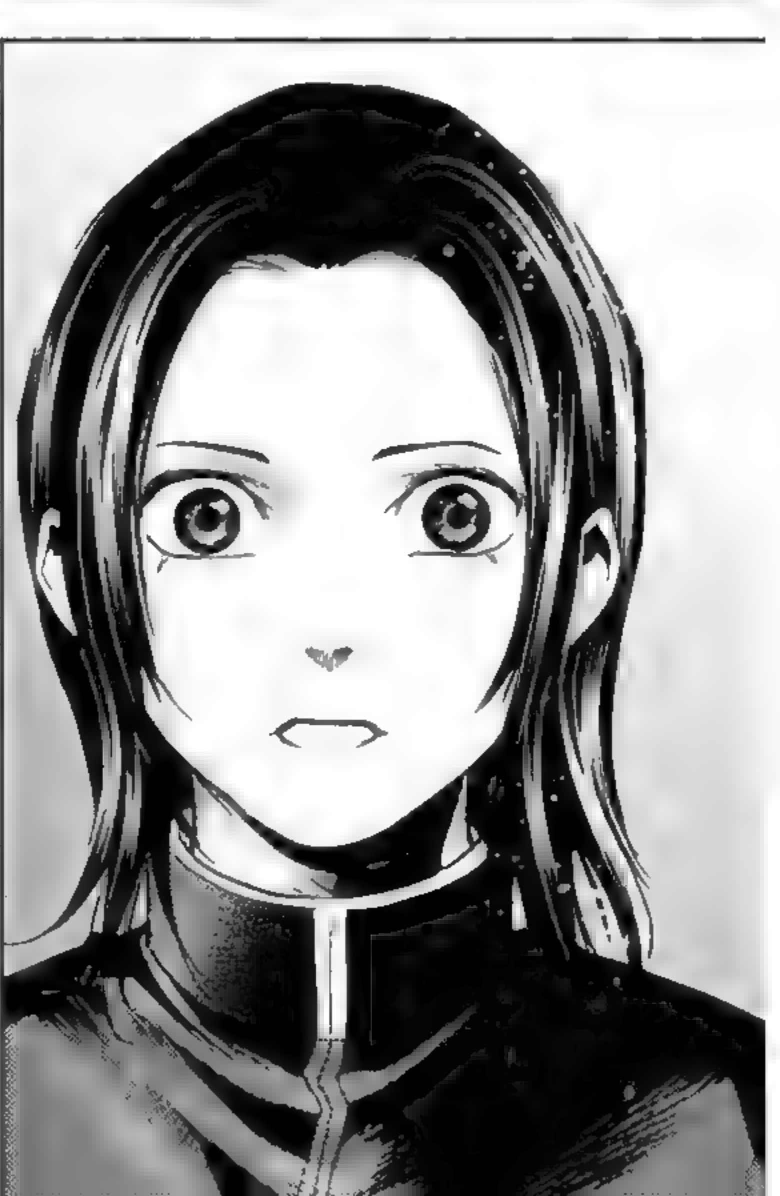

沙夜が・・・・・
言っていたんだ
！
「人の価値は死に様で決まる」
あの時から・・・・・僕は彼女をずっと追い続けてきた
グググ・・・
この戦争で死ぬのは僕か・・・・彼女か
それは誰にもわからない
たとえ殺し合うとしても――

それが二人の死に様なら

僕は・・・・望むところだ!!









!!
ザッ



青山くん……!!
……ったく……お前一人で田原坂までたどり着けると思ってんのかよ



援護してやるよ!!
……しょうがねぇな



…い…いいのか!?
ありがとう……

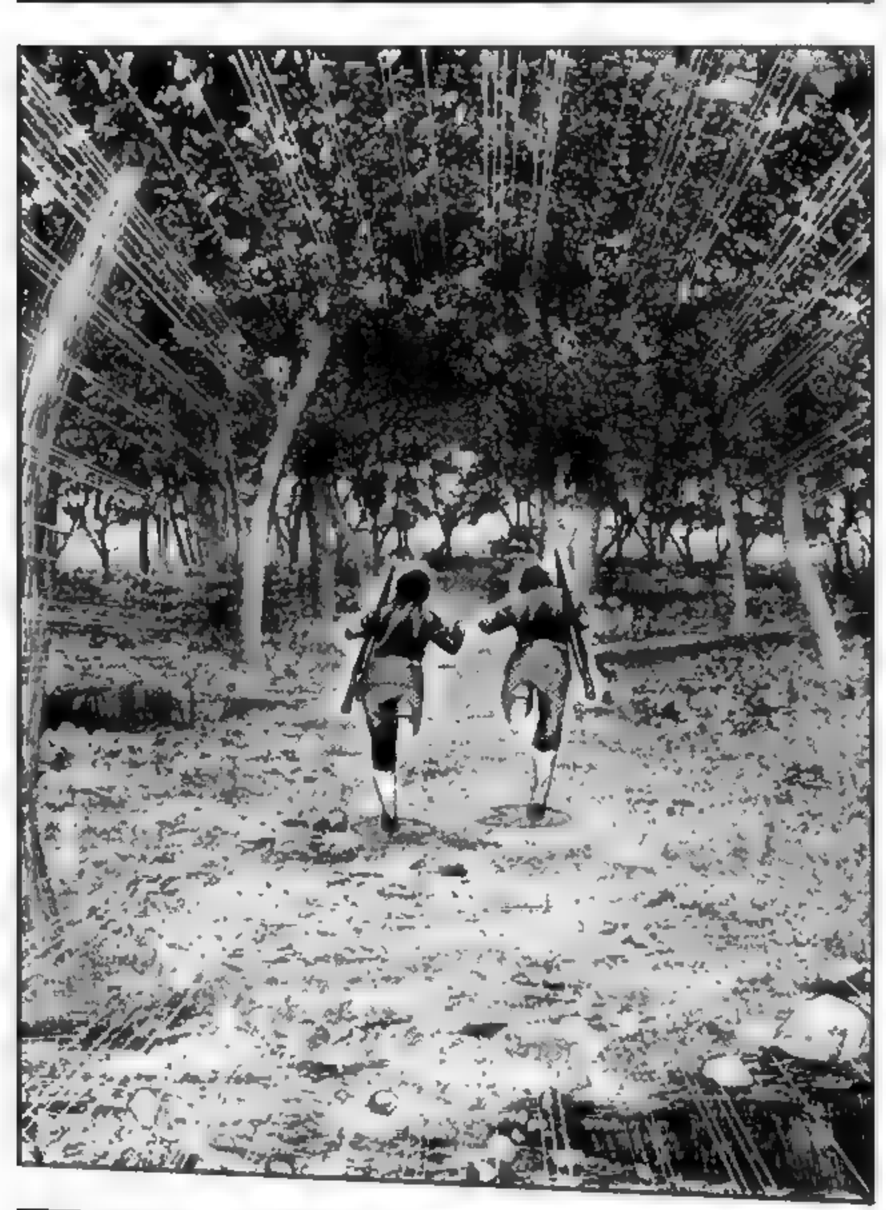


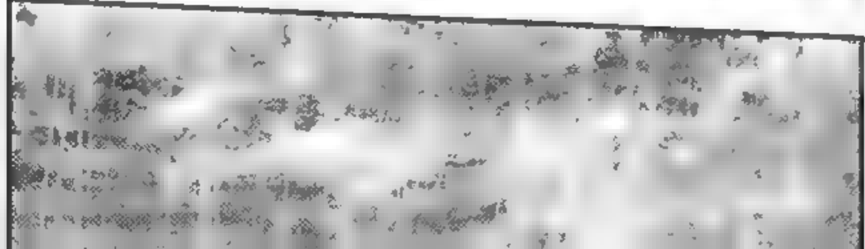

へっ…どこのお嬢さまが相手かと思ったら
首斬り家に惚れてるとはな

だったら私にもまだ振り向かせる隙はありそうだな

女の執念舐めんなよ幸乃助!!

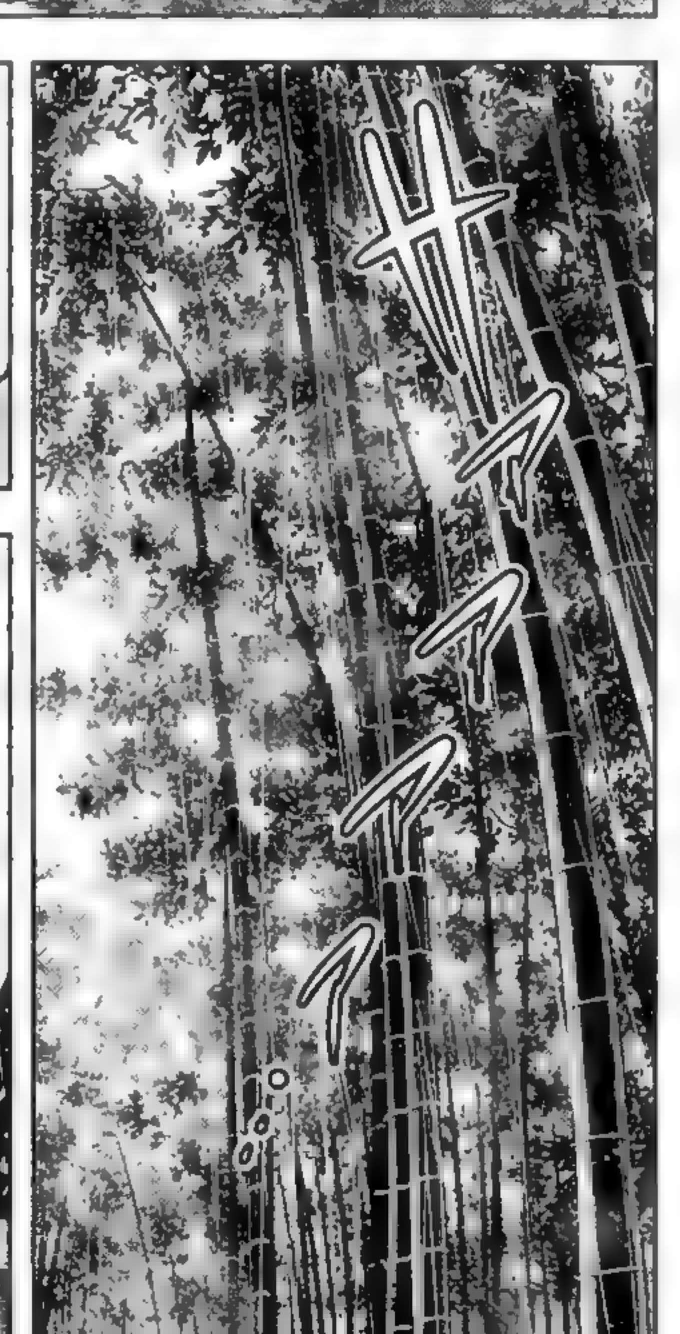






三月四日

田原坂



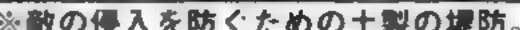
サァァァァ…



狭く曲がりくねった坂道
滑りやすい赤土・・・・!!
政府軍を待ち伏せるには最適の場所だ
奴らがここを通るとなぜわかる?






※敵の侵入を防ぐための土製の堤防。








ザァァァァ……

ぐわぁぁっ!!

砲撃だーーっ!!

一斉射撃用意!!

ドッ

オオオオオ

オオオオオ


撃てぇーっ!!
ドドドドドド
ドドド
うおおおおおおおおお!!
おおおおお

ぐふっ!!

ぎっひっ!!

おがぁっ!!

わああああ
あああ!!

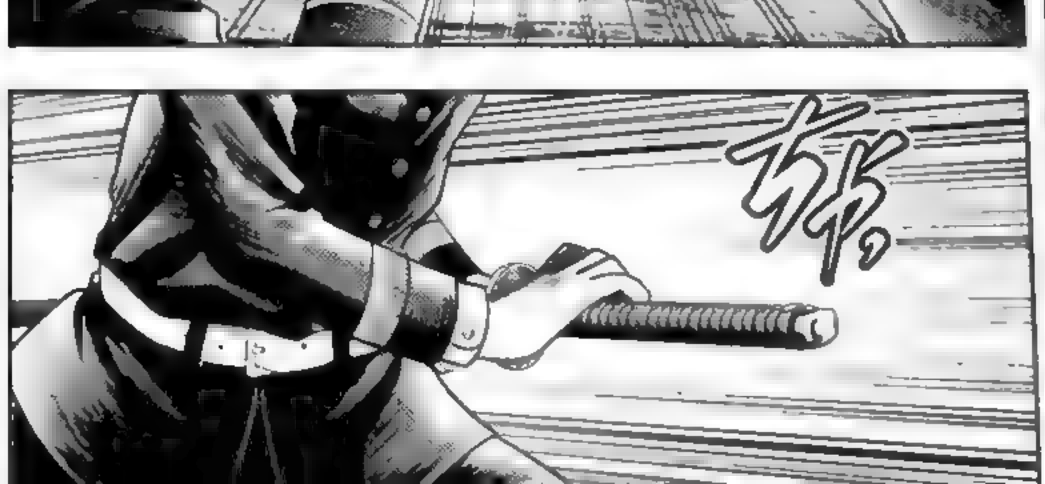



くそ‥また不発だ!!
調子が悪くなって
きよった
ザァァァァァァァ
カチャ
この霙のせいです!!
エンフィールド銃は
水に弱い‥‥!!


西郷軍の主力銃は
弾込めが遅く
水気に弱い
前装式小銃であった
対する政府軍は
後装式の
スナイドル銃
装備面で優れていた


銃など
必要ない
刀が一番
信頼できる
その通りだな
行くぞ
お前ら


斬り込め
ええええ!!
オオオオ
ひいいっ‥‥
西郷軍の
抜刀隊だあ!!


ちゃ


!!
むっ
!?
なんだと……
……くっ……!!
こいつら
できるぞ
!!
気をつけろ
洞門!!


ギギン
首斬り家……
探したぞ!!
ギ
ギ
ギ
………!!
にぃ…
我ら


「警視抜刀隊」!!
貴様を討つために剣術の猛者が集められたのだ


覚悟しろ首斬り家!!
……っ!!


くっ……


終わりだ
首斬り家
第四十二話 終


もらったああ!!
死ねえ首斬り家!!
ボタタ…

第四十三話 鮮血



でえい!!
ぎゃっ!!
うわっ!!

体は鍛えておくもんだな……
はぁ…
ふぅ…
こんなもの……かすり傷だ……





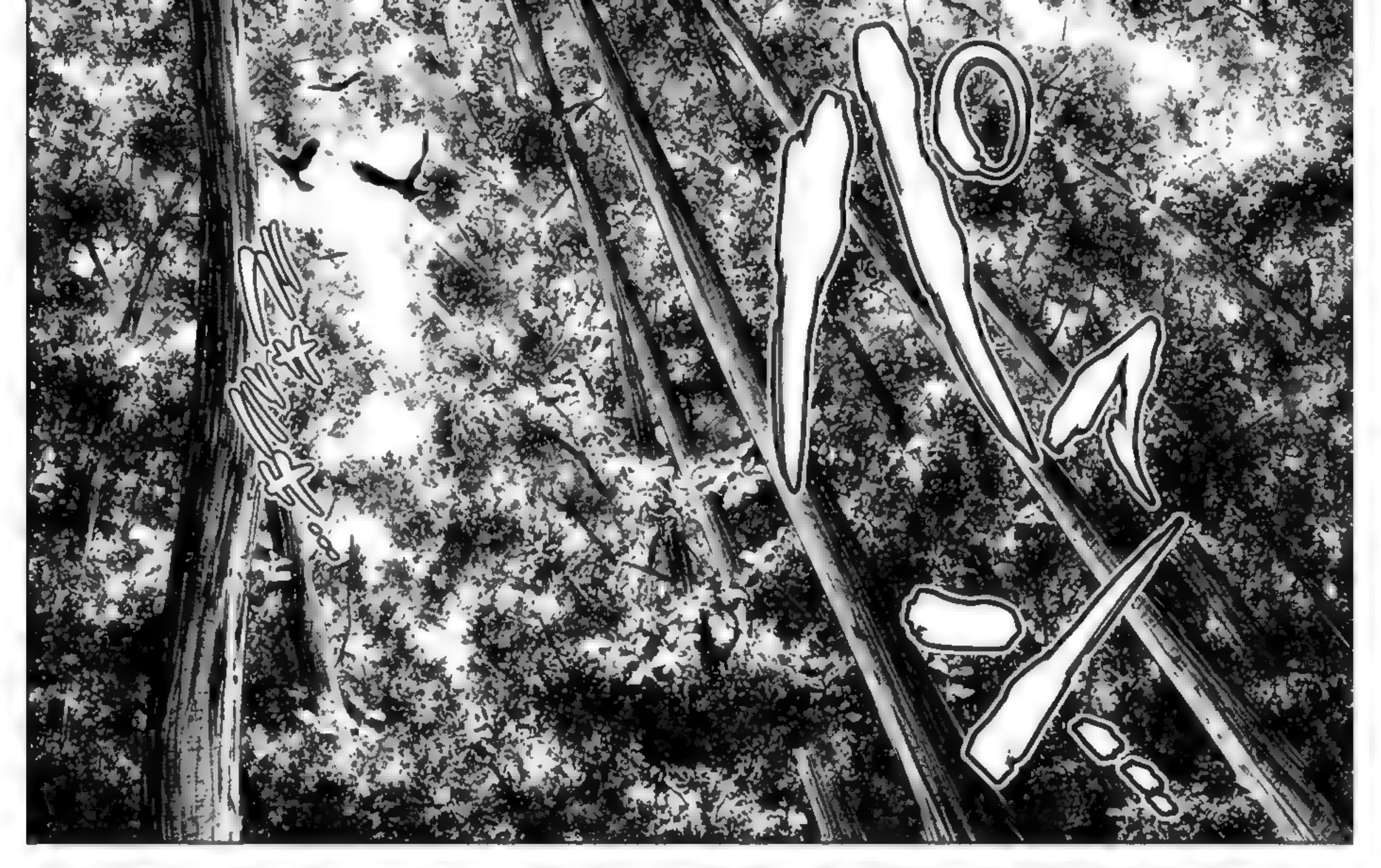



俺たちが腐っていくこの国を変えるんだ！
ブシュウ…！
ド
うおおおおおおー!!
ザアアアアア
ドクン…






おらおらあ!!
げへっ!!
ぐうっ……こいつ…!!


パァン…






……や……
……やった……
ドクン
ドクン
僕が……
殺した……



にっ
やるじゃ
ねえか
助かったぜ
幸乃助



パァン
パパパ
ドォン
田原坂まで
あと少しだぞ！
しかしすげえ銃声だな
相当な激戦に
なってるらしい



沙夜…頼む!!
生きて
いてくれ…!!



……なあ


そんなに強ぇのか？首斬り家は
電信でえれぇ大慌てしてたじゃねぇか


ああ……とても強いよ
体だけでなく……心も


私だって強ぇだろ……
ん？なんだって？


む…


なんでもねぇよ!!
よーし決めた!!

この戦争であと二十人はぶっ殺す!!

ええ!?

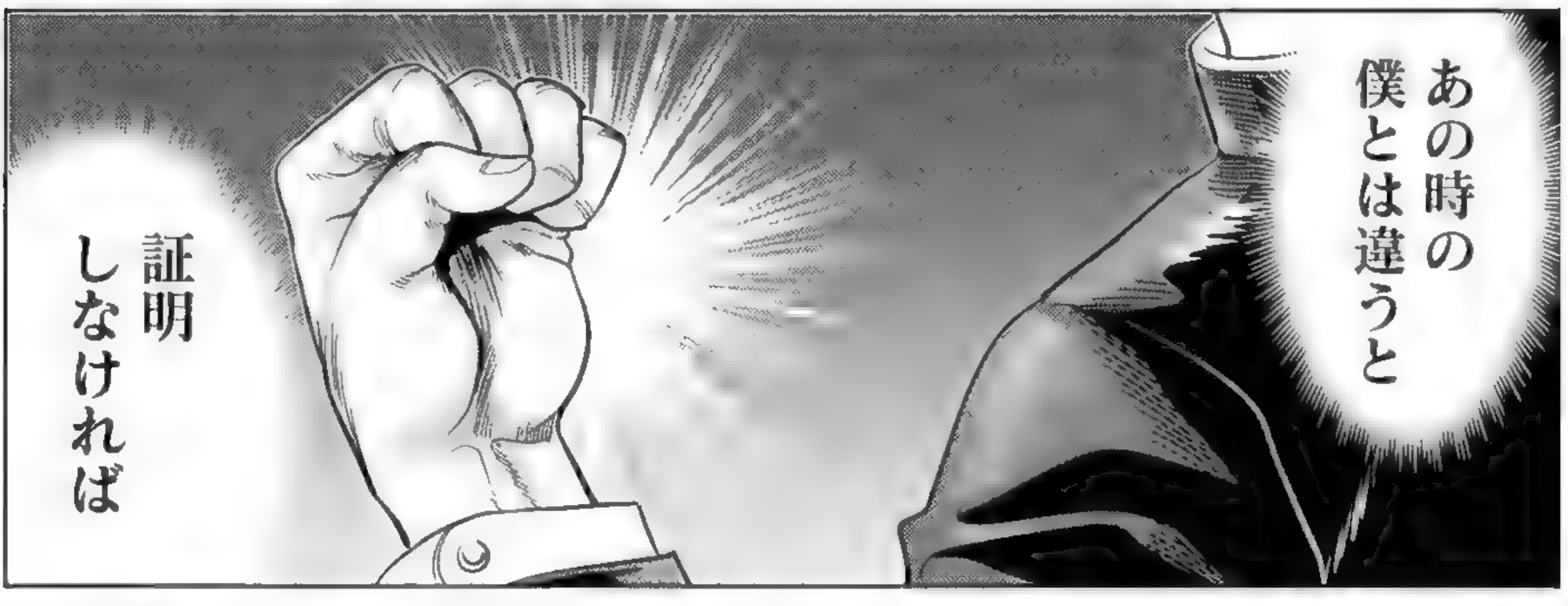
私のほうが強ぇ女だってところ見せてやるよ!!








お前とでは
明治の世は
生き残れない


あの時の
僕とは違うと
証明
しなければ


この戦場を
生き抜き
駆け抜けてきた
ただ君に
もう一度会う
ためだけに──


それを・・・・

青山くん……？
——シッ!!









危ない!!

おっと!!

ジャ…







うぐっ!!

ぎゃっ!!

ぎえっ!!




ズ
ブシュウゥ…
……え?









第四十三話 終

…はっ……
ガクガク
ゴポ
く…ふっ…








第四十四話 一人の男と女


沙夜(さよ)……!?


!!
ダッ


さっ……沙夜!?
待ってくれ!!


ガシッ


!!


辛…乃の……助……私……
ハヒュー……
死ぬ…の…か……?


…んで…だよ
…くそ……
こんな……
ところ…で……


…そんな…!!


私は……
ヒクッ
お前と……
ヒクッ
青山くん
……!!
……花代!!
花代!!



預けるぞ
幸乃助
女の執念
舐めんなよ
幸乃助!!
ああ…!!
派手に
やろうぜ


うあああああ!!
ザッ



どうやらやたら強ぇ長髪は死んだらしいな
さすが首斬り家だ



残るは一人だけだ!!
やっちまえ!!

ザァァァァァ



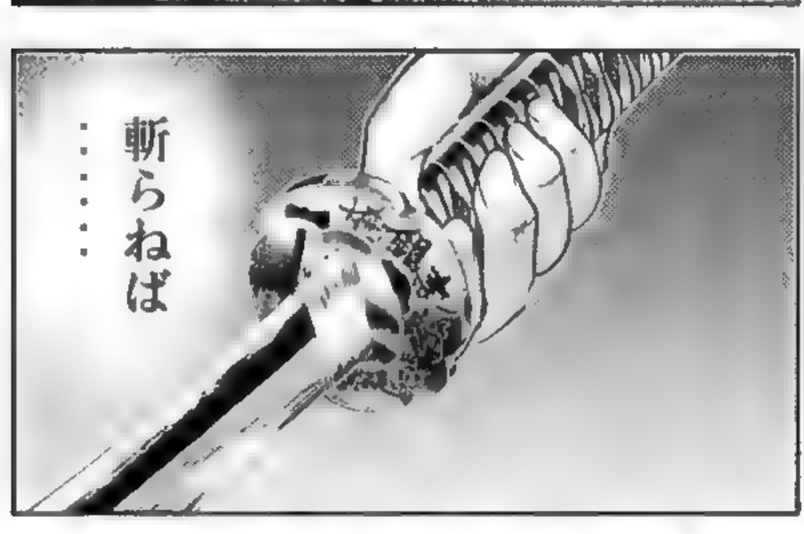




なぜ
幸乃助(あいつ)が

ここに
いる・・・・!?

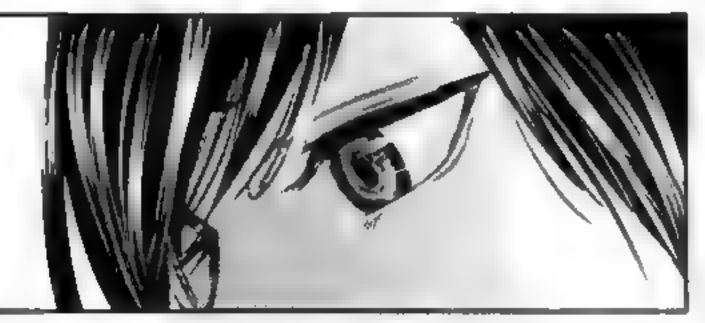






沙夜!!








幸乃助は本当に来た
私の住む所に
全てを捨て同じ場所に立った
今やもう二人の間に身分など存在しない


華族でも
首斬り家でもない
一人の男と
一人の女が
血に塗れたこの戦場で
相対している


沙夜・・・・!!
会いたかった・・・・!!




……ああ……
ザアッ
私もだ








ギ
ぐうっ・・・
ギ
むぅぅ・・・
ギ
・・・どうした
ギリ
そんなものか
・・・っ・・・!!
幸乃助



僕は強くなった・・・!!
ギン
ガ
ザ
ザ
君を倒せるぐらいに!!
ド
ツ
ズキン
・・・っ・・・!!
ズ
…あの時の傷か……
……くっ…
思ったより深かったか…!?

うおおおおおおおっ!!

受けきれないっ……!!

ゴオッ



ザッ

!?ア…ッ

ア…ッ

アアアアア




……やれ……
殺すんだ


ハァ…
ハァ…
悪くない最期だ……
お前に殺されるのもな……


さぁ……やれ
幸乃助


第四十四話 終

第四十五話 一つに








ギュッ


……やめろ……!!
幸乃助……!!


沙夜……!!


六年前…初めて君の処刑を見た時から
君だけをずっと追い求めてきた


グ…


君を愛している
この世の誰よりもずっと・・・・・・!!



・・・なぜここにいる
!

なぜ私をいつも惑わせる
なぜ・・・・

お前に出会えた事が‥‥







こんなにも嬉しいのか‥‥‥

……認めよう

私は……お前を求めている








お前が好きだ



幸乃助
沙夜っ・・・・!!
・・・・・!!
・・・あっ・・・

ザァァ
ァァ




…ん…
……んっ……


きゅ…


…あっ…
ビクンッ
ふ……うっ……


沙夜…!!
ああ……あれだけ追い求めた……
君に見せたくて



洞門沙夜が今
ビクッ
んあぁっ……!!
ちゅっ…
ちゅ
ここにいる!!
幸乃助……
ビクッ
…あっ…
あの時 あの夜 走り出した 時から
ずっとずっと 願ってきた——

沙夜と
ぴちゃ…
あっ…あっ…
いやっ……!!
一つになる事を……!!





……あっ……
ずずず……
ああああああっ——!!


ふうっ・・・!!
沙夜・・・・・・
痛く・・・・
ないかい?
・・・ああ・・・・・
少しずつ・・・
慣れてきた・・・・・
つ・・・
じゃあ・・・・・
動くよ
・・・・
んっ・・・

パンッ

ふっ……!!

はっ……
ああっ……
んっ……

なんて……
可愛いんだ……!!

ドキ
ドキ

こんな沙夜……
初めて見た……





幸せだ……

私の生涯で最も幸せな時だ……














第四十五話 終


ザァァァァァ
第四十六話 時代の幕







沙夜(さよ)・・・・?
どうした・・・・?

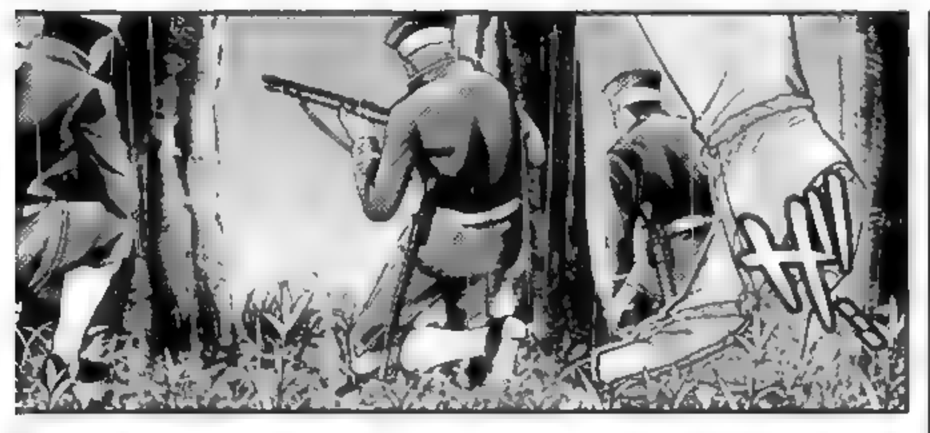
・・・・わからない
なぜか・・・・涙が出てきてな・・・・

やっと・・・・信じられたのかもしれない・・・・・・
身分も・・・・生まれも全(すべ)て忘れて・・・・


人は・・・・
自由に己の道を歩んでいけると・・・・
・・・そうだ・・・・
ぐっ・・・
そうさ!!
二人で・・・生きていこう!!
いっしょに・・・・生まれ変わるんだ!!


…ああ……
お前となら きっとできる…!!



なんだ
あいつら…？
戦場で裸になって
盛ってやがる
ガサッ
だが見ろよ
なかなか
いい女だぞ
男だけ
殺して……

ザ…

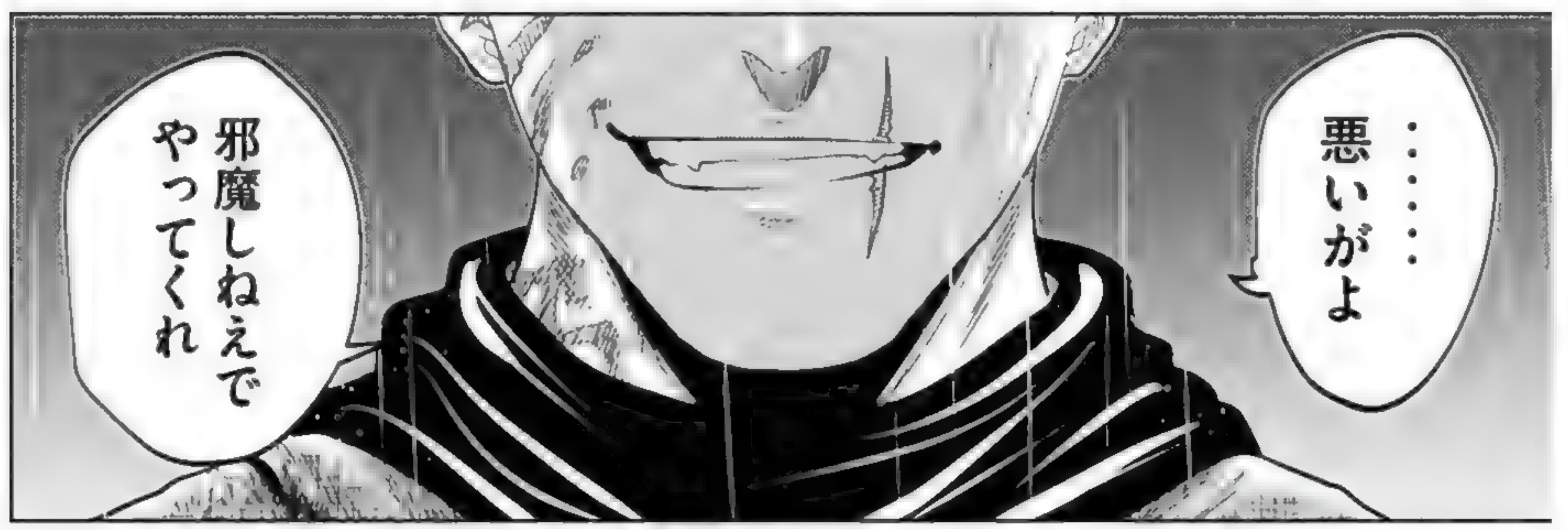
ジャキ…
女は
犯そうぜ

！

うわあっ!!

ニヤ…

なっ……!!



水差したくねえんだよ

惚れた女の幸せによ

くそったれ士族め相手は一人だ!!

やっちまえ!!

洞門――

ズオッ

そいつが例の「軟弱男」か

見つけたら叩っ斬ってやろうと思ってたが・・・・


洞門……お前……
あんな顔
できるんだな
俺には
引き出せなかった
…負けたよ
「軟弱男」
なんで倒れ
ねぇんだ!!
撃て!!
もっと
撃て!!


うおおおおおお!!
洞門を
幸せにしてくれよ
ヨロ
頼んだぜ



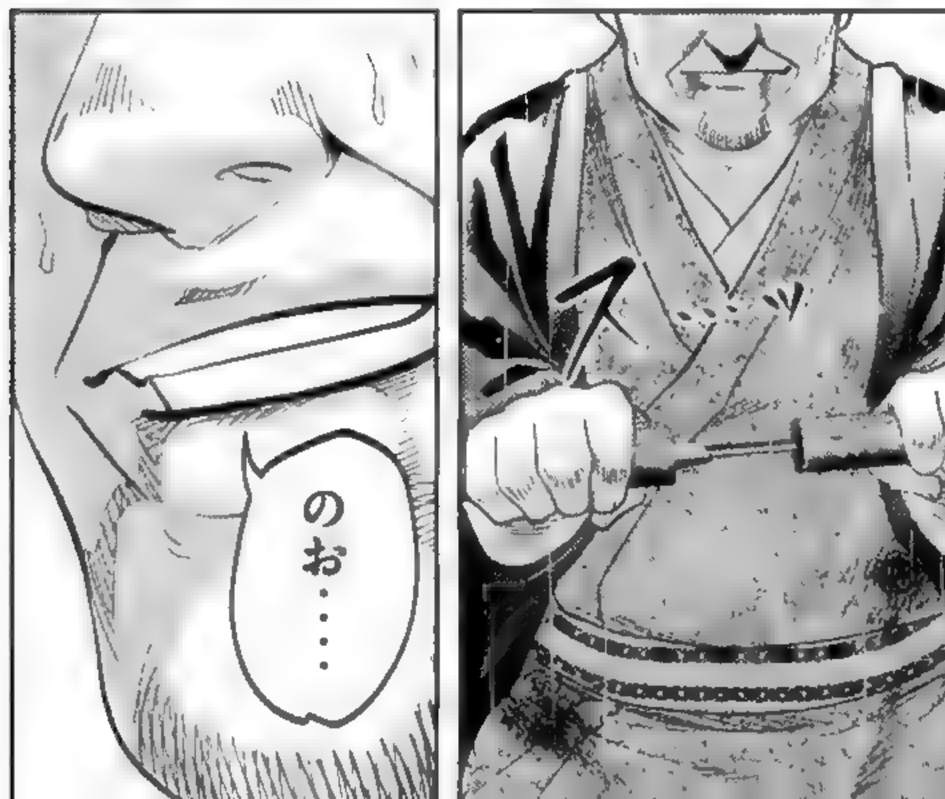

火力・兵力で
政府軍に
圧倒されていく
西郷軍は
敗走をくり返し
故郷・鹿児島に戻り
私学校を拠点と
した
西郷軍の
残った勢力は
四百人足らず
五万を超える
政府軍が
これを包囲し
この戦争を
終わらせる
べく
集中砲火を
浴びせた
ドッ

明治十年九月二十四日


西郷先生!!
大丈夫ですか!!
ああ……
腹と足から
出血がっ……


……晋どん
もう……
ここでよか

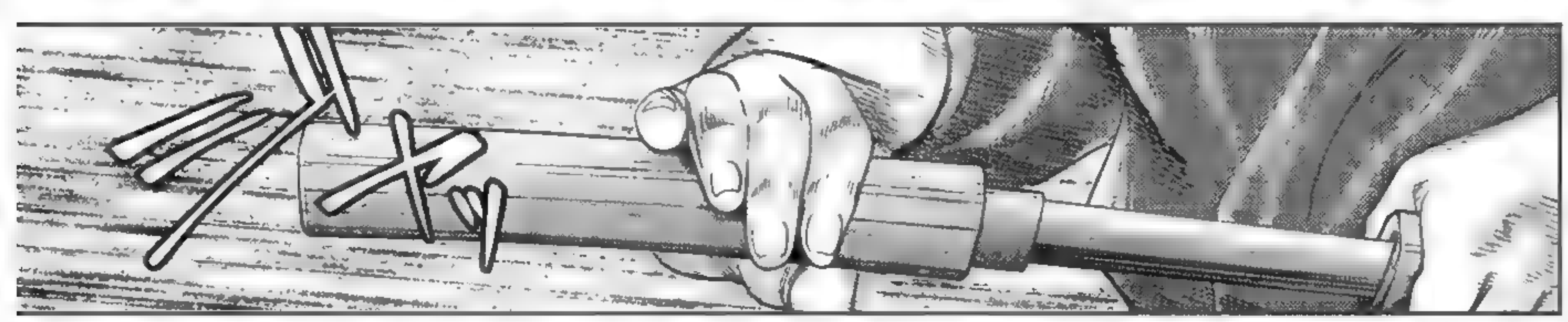

先生っ……!!


のお……

戦いに敗れても・・・・
この血は消えやせん
・・・・？
お前らが戦ったという証は・・・・
永遠に残り続ける
何十年・・・・いや何百年経とうが
この戦争で流された血を
この国が傾くたび・・・・窮地に陥るたびに人々は思い出す


何かをっ・・・・変えるために・・・・・・!!
命を賭して行動した魂を・・!!







西郷隆盛(たかもり) 自刃(じじん)

政府軍の大勝で

西南戦争は終結した




翌年
明治十一年五月十四日
ガラ ガラ ガラ…
なっ……何事だ!!
大久保ぉ!!
ズドンッ
ヒヒーン…!
西郷先生の恨み!!
うわあ!!
天誅!!



一つの時代が、幕を下ろした

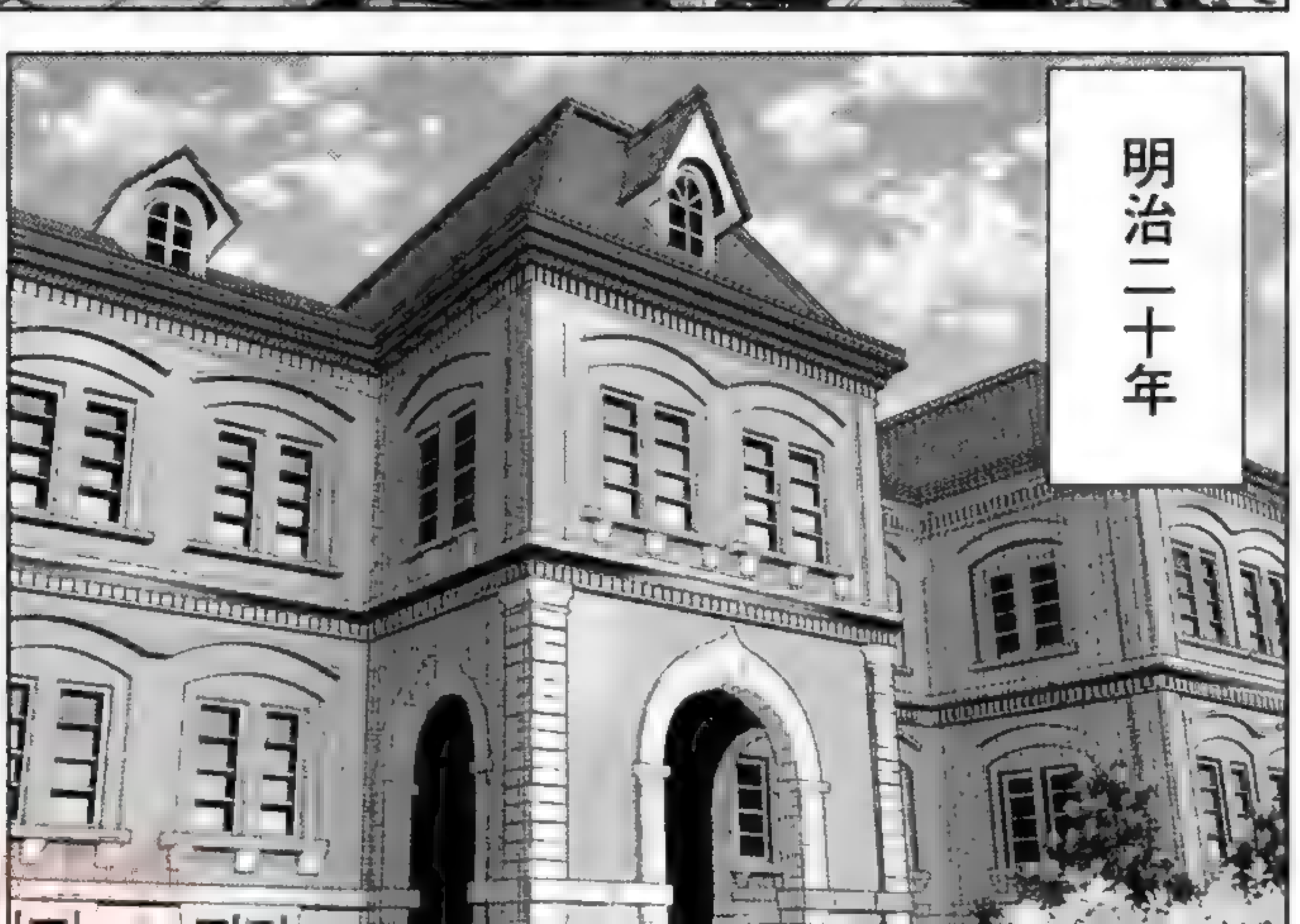
第四十六話 終


首を斬らねば
分かるまい



十年後――

最終話
首を斬らねば分かるまい





伊藤総理

おお!!

初代内閣総理大臣
伊藤 博文









※「明治十四年の政変」で二人は対立していた。






ガチャ…
む……!!
私からも頼みますよ
ガッ
大隈さんは改革派の権威
ガッ
あなたが政権に入ってくれれば……
まさに鬼に金棒だ
フフフ…君に言われちゃ敵わんな
スッ…
華族・愛州家の新当主…

愛州達臣くん



わかりました前向きに考えますよ
頼みます大隈さん!!
それではこれで……
いやあ助かった!!君がいてくれてよかったよ
大した事はしてませんよ
なに 立派に伊藤内閣の一員さ……ところで……


今日ですね・・・・
幸乃助(ゆきのすけ)くんの命日は・・・・

まさかあの戦争で帰らぬ人となるなんて・・
・・・・ええ

今でも信じられません

くく・・・

・・・?どうしました?
・・いや・・・・失礼・・・・


愛州幸乃助は
戦死しましたが・・・・
あいつの魂は
どこかで
生きていますよ
ガヤ
ガヤ・・・
ですから!!

これからの日本を背負って立つのは女性たちなのです!!

男性主権の時代を変えていかねばなりません!!

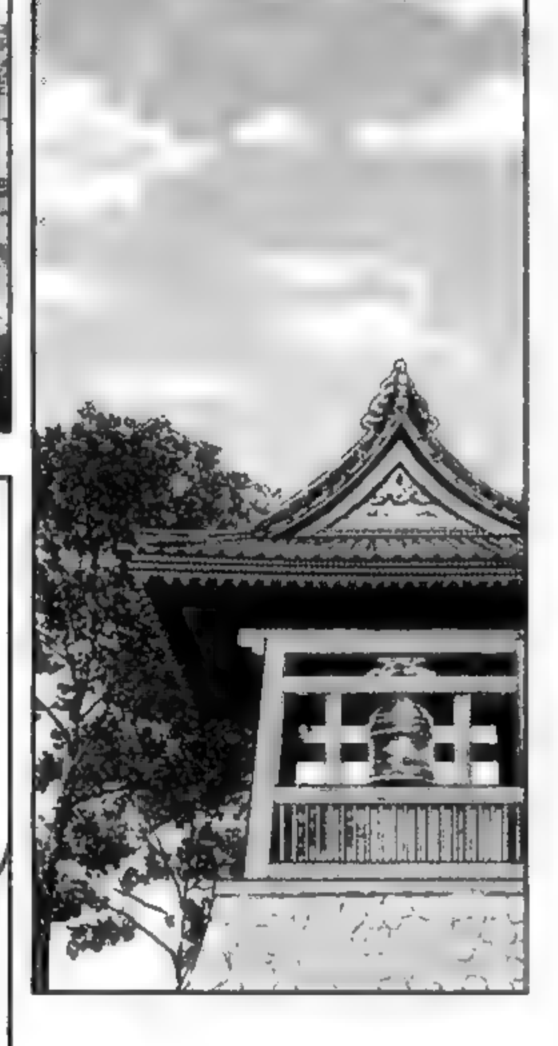
素敵ですわ晴美さま!!

華族でありながら女性解放運動にも力を入れていらっしゃるのよね!!






津田梅子さん!?




日本に帰ってきて今は英語の教師をやっていますの
あれから十年も経ったのね…
でも両親は早く結婚しろとうるさくて……


もうお見合い写真を見るのもうんざりですわ


晴美さんは?
あ…あの……お兄さまといっしょになられたの?

いいえ……あの方は……
ザァァ……
遠くに行ってしまったわ……
もう……会えないの？
そうね……
え……？
でも……信じてるわ
今の私が・私にしかできない事を懸命にやっていれば……


きっといつか見てくれる……
生まれ変わった私の姿を・・・・
本当に愛してるのね・・お兄さまを
私はそんな素敵な人きっと見つけられないわ
フフフ・・・・そんな事ないわよ!!


パタ
パタ…




ひらひら…


ダダダ…


ズデッ
ぎゃっ!!


沙助!!


もうすぐご飯よ――!!
あらあらそんなに汚れちゃって……




腹へったー
父ちゃん
絵描けたか!?
ああ‥‥
ちょうどできた
ところだよ


わ!!
母ちゃんだ
!!
自信作だ‥‥
綺麗だろう?



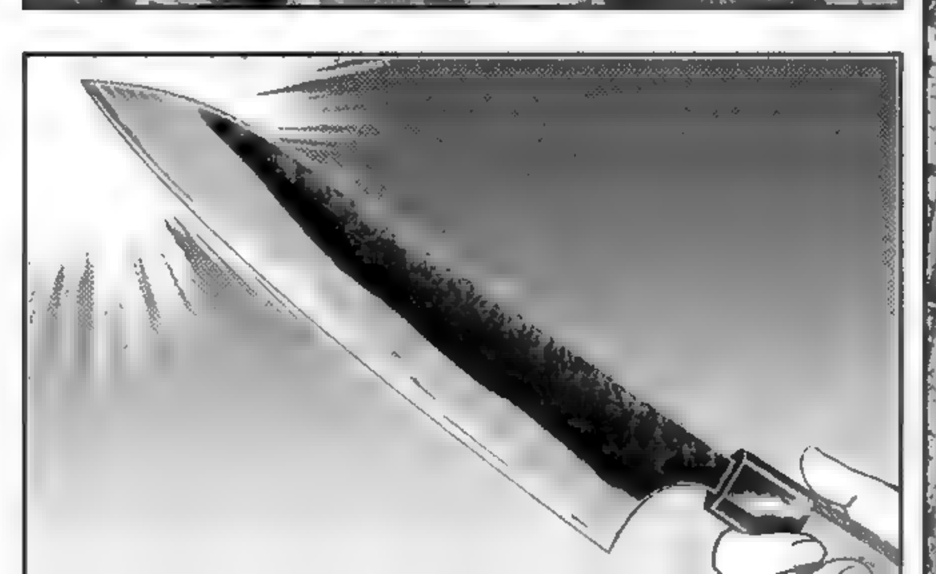

さ ご飯の前に
お風呂に入ろう
!!
うん!!

十年前――愛州幸乃助と
洞門沙夜は西南戦争で死んだ

そして二人の
新たな人生が始まった








血もなく
死臭もない
暮らしが
トン
トン


くかー…




今日 絵が
一枚売れたよ
本当？
ああ…
沙助に釣り竿を
買ってやろう



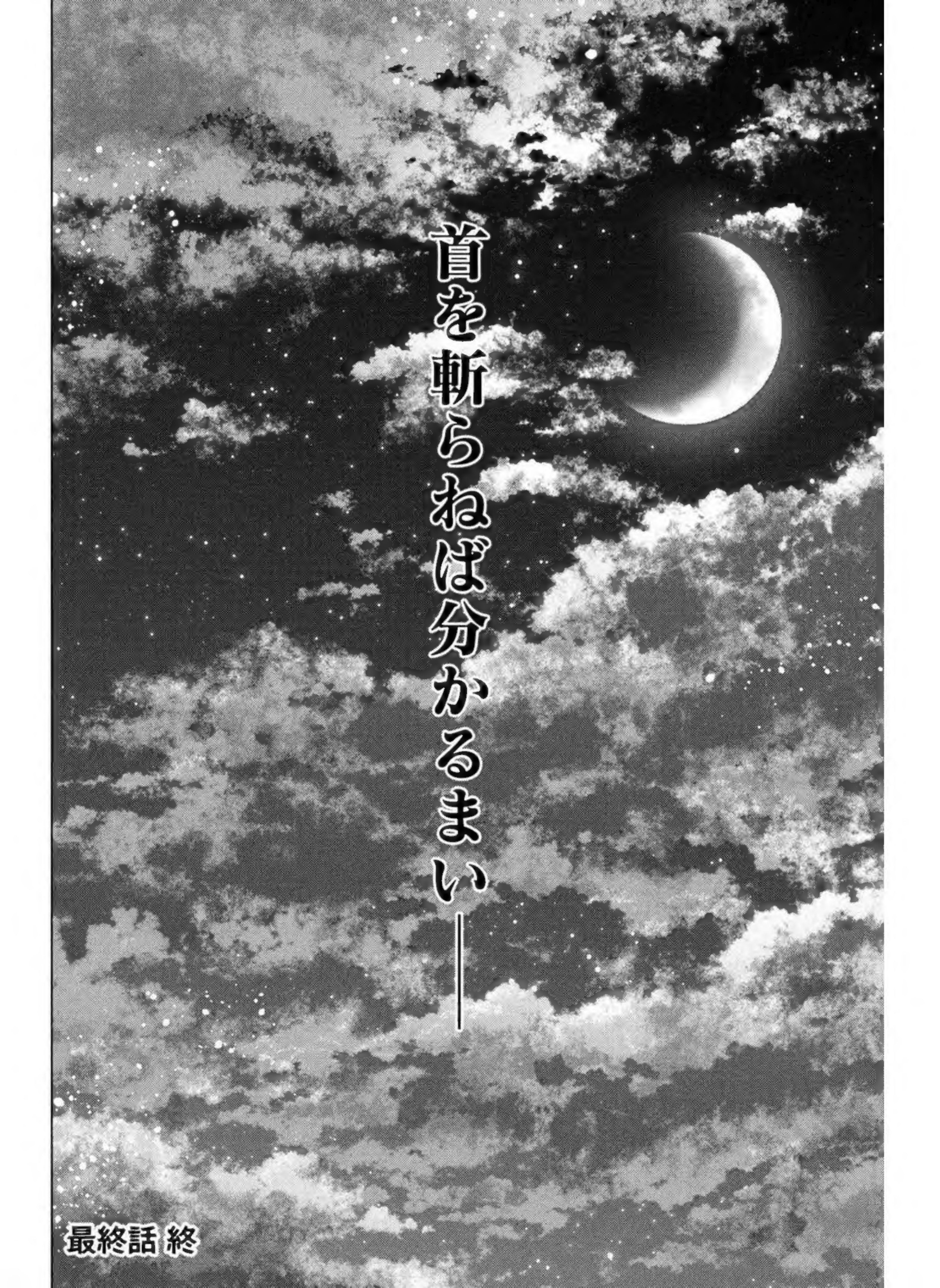


全てを捨てる事は
簡単ではない
この世のあらゆる鎖が
この身体を縛ってくる
でも
それを断ち切った
時に初めて——

僕たちは
生き始めた


僕は華族を捨て
沙夜は刀を捨てた
ただの男と女
今の二人にどんな
価値があるのか


それは
「死に様」で決まる
人の
価値は——


首を斬らねば分かるまい——
最終話 終

完

※この物語はフィクションです。実在の人物・団体・出来事などとは、
一切関係ありません。

※収録されている内容は、作品の執筆年代・執筆された状況を考慮し、
　コミックス発売当時のまま掲載しています。

首を斬らねば分かるまい（5）

2020年12月1日発行（01）

原作　門馬司
著　奏ヨシキ

発行者　森田浩章

発行所　株式会社　講談社
〒112-8001
東京都文京区音羽 2-12-21